

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		研究科の専攻の設置								
フリガナ 設置者		カッコウホツシツ トウカイダイガク								
フリガナ 大学の名称		トウカイダイガクダクイナ								
大学本部の位置		東海大学大学院 (Tokai University Graduate School)								
大学の目的		神奈川県平塚市北金目4-1-1								
大学の目的		東海大学大学院は、東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。								
新設研究科等の目的		【工学研究科】 本学の建学の精神に基づき、情報理工学・電気電子工学・応用理化学・建築土木工学・機械工学・医用生体工学における高度な専門知識・技術に加え、公平な歴史観、世界観に基づいた倫理と国際的な視野を兼ね備え、社会の変化に対応しながらその普遍的な本質を捉える力を養い、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発研究の成果を、工学による人類社会の持続的な世界の実現につなげることができる研究者・技術者を養成することを目的とする。 【情報理工学専攻】 「人間」と「情報」の関係を有機的に捉え、生じている課題や問題の本質を洞察して未知の課題を想定し、「人間」と「情報」のあり方を探求し、“人間と情報が共に社会を創っていく「共創」”の考えのもと、健全な未来と社会の構築を目指して、「情報分野に関する専門知識と柔軟な思考力」、「知の汎化と人間・情報共創のあり方の探求力」、「健全な倫理観と国際的視野での自己向上力」を身に付けた『人間と情報の共創』による未来社会の構築に貢献できる高度情報人材」を養成することを目的とする。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 情報理工学部
	工学研究科	年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	情報理工学専攻	2	40	—	80	修士 (工学)	工学関係	令和8年 4月 第1年次	神奈川県平塚市 北金目4-1-1	
	計		40	—	80					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		工学研究科 電気電子工学専攻 [定員減] (△30) (令和8年4月) 応用理化学専攻 [定員減] (△5) (令和8年4月) 建築土木工学専攻 [定員増] (10) (令和8年4月) 機械工学専攻 [定員増] (10) (令和8年4月) 情報通信学研究科 情報通信学専攻 [定員減] (△10) (令和8年4月)								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
	工学研究科情報理工学専攻	33 科目	8 科目	0 科目	41 科目	30 単位				
研究科等の名称		専任教員						助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	工学研究科	人	人	人	人	人	人	人	人	
	情報理工学専攻 (修士課程)	16 (16)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	7 (7)		
	計	16 (16)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	— (—)		

既	総合理工学研究科	130	25	3	0	158	0	0
	総合理工学専攻（博士課程）	(130)	(25)	(3)	(0)	(158)	(0)	(0)
	生物科学研究科	19	6	0	0	25	0	0
	生物科学専攻（博士課程）	(19)	(6)	(0)	(0)	(25)	(0)	(0)
	文学研究科	9	3	0	0	12	0	0
	文明研究専攻（博士課程前期）	(9)	(3)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)
	文学研究科	12	3	0	0	15	0	0
	文明研究専攻（博士課程後期）	(12)	(3)	(0)	(0)	(15)	(0)	(0)
	文学研究科	9	4	1	0	14	0	0
	史学専攻（博士課程前期）	(9)	(4)	(1)	(0)	(14)	(0)	(0)
	文学研究科	8	2	0	0	10	0	0
	史学専攻（博士課程後期）	(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)
	文学研究科	13	3	0	0	16	0	1
	日本文学専攻（博士課程前期）	(13)	(3)	(0)	(0)	(16)	(0)	(1)
	文学研究科	9	1	0	0	10	0	0
	日本文学専攻（博士課程後期）	(9)	(1)	(0)	(0)	(10)	(0)	(0)
	文学研究科	4	1	0	0	5	0	0
	英文学専攻（博士課程前期）	(4)	(1)	(0)	(0)	(5)	(0)	(0)
	文学研究科	4	1	0	0	5	0	0
	英文学専攻（博士課程後期）	(4)	(1)	(0)	(0)	(5)	(0)	(0)
	文学研究科	11	4	1	0	16	0	6
	コミュニケーション学専攻（博士課程前期）	(11)	(4)	(1)	(0)	(16)	(0)	(6)
	文学研究科	10	1	0	0	11	0	0
	コミュニケーション学専攻（博士課程後期）	(10)	(1)	(0)	(0)	(11)	(0)	(0)
	文学研究科	4	2	0	0	6	0	0
	観光学専攻（修士課程）	(4)	(2)	(0)	(0)	(6)	(0)	(0)
	政治学研究科	7	2	2	0	11	0	1
	政治学専攻（博士課程前期）	(7)	(2)	(2)	(0)	(11)	(0)	(1)
	政治学研究科	7	0	0	0	7	0	0
	政治学専攻（博士課程後期）	(7)	(0)	(0)	(0)	(7)	(0)	(0)
	経済学研究科	9	4	1	0	14	0	0
	応用経済学専攻（博士課程前期）	(9)	(4)	(1)	(0)	(14)	(0)	(0)
	経済学研究科	9	0	0	0	9	0	0
	応用経済学専攻（博士課程後期）	(9)	(0)	(0)	(0)	(9)	(0)	(0)
	法学研究科	13	5	0	0	18	0	0
	法律学専攻（博士課程前期）	(13)	(5)	(0)	(0)	(18)	(0)	(0)
	法学研究科	12	0	0	0	12	0	0
	法律学専攻（博士課程後期）	(12)	(0)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)
	人間環境学研究科	9	5	0	1	15	0	4
	人間環境学専攻（修士課程）	(9)	(5)	(0)	(1)	(15)	(0)	(4)
	芸術学研究科	2	3	0	0	5	0	0
	音響芸術専攻（修士課程）	(2)	(3)	(0)	(0)	(5)	(0)	(0)
	芸術学研究科	4	3	0	1	8	0	0
	造型芸術専攻（修士課程）	(4)	(3)	(0)	(1)	(8)	(0)	(0)
	体育学研究科	22	7	3	0	32	0	0
	体育学専攻（博士課程前期）	(22)	(7)	(3)	(0)	(32)	(0)	(0)
	体育学研究科	11	3	1	0	15	0	0
	体育学専攻（博士課程後期）	(11)	(3)	(1)	(0)	(15)	(0)	(0)
	健康学研究科	6	7	2	0	15	0	1
	健康マネジメント学専攻（修士課程）	(6)	(7)	(2)	(0)	(15)	(0)	(1)
	理学研究科	14	6	2	0	22	0	0
	数理科学専攻（修士課程）	(14)	(6)	(2)	(0)	(22)	(0)	(0)
	理学研究科	10	3	2	0	15	0	1
	物理学専攻（修士課程）	(10)	(3)	(2)	(0)	(15)	(0)	(1)
	理学研究科	10	3	0	0	13	0	1
	化学専攻（修士課程）	(10)	(3)	(0)	(0)	(13)	(0)	(1)
	工学研究科	10	6	2	0	18	0	7
	電気電子工学専攻（修士課程）	(10)	(6)	(2)	(0)	(18)	(0)	(7)
	工学研究科	20	9	0	0	29	0	4
	応用理化学専攻（修士課程）	(20)	(9)	(0)	(0)	(29)	(0)	(4)
	工学研究科	13	9	3	1	26	0	0
	建築土木工学専攻（修士課程）	(13)	(9)	(3)	(1)	(26)	(0)	(0)
	工学研究科	20	10	5	0	35	0	2
	機械工学専攻（修士課程）	(20)	(10)	(5)	(0)	(35)	(0)	(2)
分	工学研究科	5	2	1	1	9	0	2
	医用生体工学専攻（修士課程）	(5)	(2)	(1)	(1)	(9)	(0)	(2)

既 設	情報通信学研究科 情報通信学専攻（修士課程）		12 (12)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	8 (8)	
	海洋学研究科 海洋学専攻（修士課程）		37 (37)	16 (16)	3 (3)	1 (1)	57 (57)	0 (0)	1 (1)	
	医学研究科 先端医科学専攻（博士課程）		108 (108)	33 (33)	3 (3)	1 (1)	145 (145)	0 (0)	0 (0)	
	医学研究科 医科学専攻（修士課程）		105 (105)	34 (34)	4 (4)	2 (2)	145 (145)	0 (0)	0 (0)	
	医学研究科 看護学専攻（修士課程）		11 (11)	10 (10)	14 (14)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	0 (0)	
	農学研究科 農学専攻（修士課程）		16 (16)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	4 (4)	
	生物学研究科 生物学専攻（修士課程）		11 (11)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
	分	計		755 (755)	252 (252)	58 (58)	9 (9)	1074 (1074)	0 (0)	
合 計		771 (771)	258 (258)	61 (61)	9 (9)	1099 (1099)	0 (0)	— (—)		
職 種			専 属			その他			計	
事 務 職 員			538 (538)			883 (883)			1421 (1421)	人
技 術 職 員			21 (21)			162 (162)			183 (183)	
図 書 館 職 員			19 (19)			30 (30)			49 (49)	
そ の 他 の 職 員			7 (7)			0 (0)			7 (7)	
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計			585 (585)			1075 (1075)			1660 (1660)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計		内借用地：249,902.98㎡ 内借用地：9,176.50㎡ 借用期間：2～30年
	校 舎 敷 地	2,183,233.29 ㎡	0 ㎡		0 ㎡			2,183,233.29 ㎡		
	そ の 他	15,809.24 ㎡	0 ㎡		0 ㎡			15,809.24 ㎡		
	合 計	2,199,042.53 ㎡	0 ㎡		0 ㎡			2,199,042.53 ㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計		
		522,601.06 ㎡ (522,601.06 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)		0 ㎡ (0 ㎡)			522,601.06 ㎡ (522,601.06 ㎡)		
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室		演習室			新設研究科等の 専任教員研究室		
		468 室	1,293 室		295 室			25 室		
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具		標本		大学全体での共用 図書2,483,259冊 学術雑誌71,210種
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	点	点			
		工学研究科 情報理工学専攻	41,570 [3,960] (41,480 [3,940])	923 [25] (701 [20])	799 [288] (791 [286])	215 [127] (213 [125])	0 (0)	0 (0)		
計		41,570 [3,960] (41,480 [3,940])	923 [25] (701 [20])	799 [288] (791 [286])	215 [127] (213 [125])	0 (0)	0 (0)			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	共同研究費等については、研究科専攻単位での算出不能なため、学部との合計。 図書購入費については、電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。	
		教員1人当たり研究費等		330千円	330千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		共同研究費等		23,567千円	23,567千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図書購入費	450千円	450千円	450千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	450,281千円	198,154千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生1人当たり 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
			996千円	796千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産の運用、手数料及び国庫助成金等							

既設大学等	大学等の名称	東海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
大 学 等	文学部		370	—	1,480		1.09	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文明学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.06	平成13年	〃	
	歴史学科		130	—	520		1.14	昭和35年	〃	
	日本史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.15	昭和58年	〃	
	西洋史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.18	昭和58年	〃	
	考古学専攻	4	30	—	120	学士(文学)	1.08	昭和58年	〃	
	日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.09	平成13年	〃	
	英語文化コミュニケーション学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.01	昭和35年	〃	
	文化社会学部		450	—	1,800		1.07	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	アジア学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	ヨーロッパ・アフリカ学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
	北欧学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.05	平成30年	〃	
	文芸創作学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.10	平成30年	〃	
	広報メディア学科	4	100	—	400	学士(文化社会学)	1.11	平成30年	〃	
	心理・社会学科	4	90	—	360	学士(文化社会学)	1.11	平成30年	〃	
	教養学部		190	—	760		1.02	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学科	4	120	—	480	学士(教養学)	1.02	昭和43年	〃	
	芸術学科	4	70	—	280	学士(教養学)	1.01	昭和43年	〃	
	国際学科	4	—	—	—	学士(教養学)	—	昭和47年	〃	令和4年度より学生募集停止
	児童教育学部		150	—	600		1.01	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	児童教育学科	4	150	—	600	学士(児童教育学)	1.01	令和4年	〃	
	体育学部		540	—	2,160		1.03	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学科	4	120	—	480	学士(体育学)	1.05	昭和42年	〃	
	競技スポーツ学科	4	170	—	680	学士(体育学)	1.01	平成16年	〃	
	武道学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.00	昭和43年	〃	
	生涯スポーツ学科	4	120	—	480	学士(体育学)	1.01	昭和46年	〃	
	スポーツレジャーマネジメント学科	4	70	—	280	学士(体育学)	1.06	平成16年	〃	
	健康学部		200	—	800		1.00	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	健康マネジメント学科	4	200	—	800	学士(健康マネジメント学)	1.00	平成30年	〃	
	法学部		300	—	1,200		1.07	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.07	昭和61年	〃	
の 状	政治経済学部		400	—	1,600		1.08	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都港区高輪2-3-23	
	政治学科	4	200	—	800	学士(政治学)	1.08	昭和41年	〃	
	経済学科	4	200	—	800	学士(経済学)	1.08	昭和41年	〃	
	経営学科	4	—	—	—	学士(経営学)	—	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	令和4年度より学生募集停止
	経営学部		230	—	920		1.08	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都港区高輪2-3-23	
	経営学科	4	230	—	920	学士(経営学)	1.08	令和4年	〃	
	国際学部		200	—	800		1.07	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都港区高輪2-3-23	
	国際学科	4	200	—	800	学士(国際学)	1.07	令和4年	〃	
	観光学部		200	—	800		1.11	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都港区高輪2-3-23	
	観光学科	4	200	—	800	学士(観光学)	1.11	平成22年	〃	
況	情報通信学部		240	—	960		1.10	平成20年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都港区高輪2-3-23	
	情報メディア学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	令和4年度より学生募集停止
	組込みソフトウェア工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	令和4年度より学生募集停止
	経営システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	令和4年度より学生募集停止
	通信ネットワーク工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	令和4年度より学生募集停止
	情報通信学科	4	240	—	960	学士(情報通信学)	1.10	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都港区高輪2-3-23	
	理学部		320	—	1,280		1.04	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.06	昭和39年	〃	
	情報数理学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.06	昭和49年	〃	
	物理学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.00	昭和39年	〃	
	化学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.02	昭和39年	〃	
	情報理工学部		300	—	1,200		1.09	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.12	平成13年	〃	
	コンピュータ応用工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.06	平成13年	〃	
	情報メディア工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.08	令和4年	〃	
	建築都市学部		340	—	1,360		1.03	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	建築学科	4	240	—	960	学士(工学)	1.08	令和4年	〃	
	土木工学科	4	100	—	400	学士(工学)	0.91	令和4年	〃	

既設	工学部		820	—	3, 280		1. 03	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	生命化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成13年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	光・画像工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	原子力工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	材料科学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和41年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和41年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	土木工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和41年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	精密工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和46年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	動力機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和46年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	医用生体工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下鶴屋143	令和4年度より学生募集停止	
	航空宇宙学科		140	—	560		0. 96	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	航空宇宙学専攻	4	90	—	360	学士(工学)	1. 00	昭和42年	〃		
	航空操縦学専攻	4	50	—	200	学士(工学)	0. 89	平成18年	〃		
	機械工学科	4	140	—	560	学士(工学)	1. 10	昭和46年	〃		
	機械システム工学科	4	140	—	560	学士(工学)	1. 01	令和4年	〃		
	電気電子工学科	4	120	—	480	学士(工学)	1. 14	平成18年	〃		
	医工学科	4	80	—	320	学士(工学)	0. 93	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下鶴屋143		
	生物工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1. 05	令和4年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	応用化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1. 02	平成13年	〃		
大	医学部		213	—	1, 088		1. 05	昭和49年	神奈川県伊勢原市下鶴屋143		
	医学科	6	118	—	708	学士(医学)	1. 05	昭和49年	〃	定員変更延長(8)	
	看護学科	4	95	—	380	学士(看護学)	1. 05	平成30年	〃		
	海洋学部		350	—	1, 400		0. 96	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1		
	海洋文明学科	4	—	—	—	学士(海洋学)	—	平成16年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	環境社会学科	4	—	—	—	学士(海洋学)	—	平成23年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	海洋地球科学科	4	—	—	—	学士(海洋学)	—	平成23年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	航海工学科		—	—	—		—	平成23年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	航海学専攻	4	—	—	—	学士(海洋学)	—	平成23年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	海洋機械工学専攻	4	—	—	—	学士(海洋学)	—	平成23年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	海洋理工学科	4	150	—	600	学士(海洋学)	0. 69	令和4年	〃		
	海洋理工学専攻	4	130	—	520	学士(海洋学)	0. 62	令和4年	〃		
	航海学専攻	4	20	—	80	学士(海洋学)	1. 11	令和4年	〃		
	水産学科	4	120	—	480	学士(海洋学)	1. 13	平成18年	〃		
	海洋生物学科	4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 21	平成18年	〃		
	人文学部		180	—	720		0. 85	令和4年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1		
	人文学科	4	180	—	720	学士(人文学)	0. 85	令和4年	〃		
	等	経営学部		—	—	—		—	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	令和4年度より学生募集停止
		経営学科	4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成25年	〃	令和4年度より学生募集停止
観光ビジネス学科		4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成25年	〃	令和4年度より学生募集停止	
基盤工学部			—	—	—		—	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	令和4年度より学生募集停止	
電気電子情報工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成25年	〃	令和4年度より学生募集停止	
医療福祉工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成25年	〃	令和4年度より学生募集停止	
文理融合学部			300	—	1, 200		0. 94	令和4年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1		
経営学科		4	130	—	520	学士(経営学)	0. 99	令和4年	〃		
地域社会学科		4	100	—	400	学士(社会学)	0. 79	令和4年	〃		
人間情報工学科		4	70	—	280	学士(工学)	1. 04	令和4年	〃		
農学部			230	—	920		0. 84	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1 熊本県上益城郡益城町杉堂871-12		
応用植物科学科		4	—	—	—	学士(農学)	—	平成20年	〃	令和4年度より学生募集停止	
応用動物科学科		4	—	—	—	学士(農学)	—	平成20年	〃	令和4年度より学生募集停止	
バイオサイエンス学科		4	—	—	—	学士(農学)	—	平成20年	〃	令和4年度より学生募集停止	
農学科		4	80	—	320	学士(農学)	0. 93	令和4年	〃		
動物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	0. 85	令和4年	〃		
食生命科学科		4	70	—	280	学士(農学)	0. 74	令和4年	〃		
状況		国際文化学部		190	—	760		0. 98	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		地域創造学科	4	110	—	440	学士(教養学)	1. 00	平成20年	〃	
	国際コミュニケーション学科	4	80	—	320	学士(教養学)	0. 94	平成20年	〃		
	デザイン文化学科	4	—	—	—	学士(教養学)	—	平成24年	〃	令和4年度より学生募集停止	
	生物学部		150	—	600		1. 02	平成24年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1		
	生物学科	4	75	—	300	学士(理学)	1. 00	平成24年	〃		
	海洋生物科学科	4	75	—	300	学士(理学)	1. 04	平成24年	〃		

既	《大学院》								
	総合理工学研究科 総合理工学専攻 博士課程	3	35	—	105	修士(理学)・博士(工学)	0.70	平成17年 平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等 〃
	生物科学研究科 生物科学専攻 博士課程	3	10	—	30	修士(理学)・博士(農学)・博士(水産学)	0.16	平成17年 平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等 〃
設	文学研究科 文明研究専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.31	昭和44年 昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	文明研究専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.33	昭和51年	〃
	史学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.56	昭和44年	〃
	史学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.33	昭和46年	〃
	日本文学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	1.31	昭和49年	〃
	日本文学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	〃
	英文学専攻 博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	〃
	英文学専攻 博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	コミュニケーション学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.87	昭和49年	〃
	コミュニケーション学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.25	昭和51年	〃
大	観光学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	〃
	政治学研究科 政治学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.30	昭和46年 昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	政治学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.06	昭和48年	〃
	経済学研究科 応用経済学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.55	昭和54年 昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
学	応用経済学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.13	昭和56年	〃
	法学研究科 法学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.10	平成2年 平成16年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	法学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃
	人間環境学研究科 人間環境学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.40	平成19年 平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
等	芸術学研究科 音響芸術専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年 昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	造型芸術専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	1.12	昭和48年	〃
	体育学研究科 体育学専攻 博士課程前期	2	20	—	40	修士(体育学)	1.15	昭和51年 昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	体育学専攻 博士課程後期	3	3	—	9	博士(体育学)	1.22	令和3年	〃
の	健康学研究科 健康マネジメント学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士(健康マネジメント学)	1.16	令和5年 令和5年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	理学研究科 数理科学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.81	昭和43年 昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	物理学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.25	昭和43年	〃
	化学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.62	昭和43年	〃
状	工学研究科 電気電子工学専攻 修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.21	昭和38年 平成28年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 〃
	応用理化学専攻 修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.38	平成28年	〃
	建築土木工学専攻 修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	2.12	平成28年	〃
	機械工学専攻 修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.47	平成28年	〃
	医用生体工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	1.37	平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	情報通信学研究科 情報通信学専攻 修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	1.03	平成24年 平成24年	東京都港区高輪2-3-23 〃
	海洋学研究科 海洋学専攻 修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	1.45	昭和42年 平成27年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1 〃
	医学研究科 先端医科学専攻 博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.44	昭和55年 平成17年	神奈川県伊勢原市下糟屋143 〃
	医科学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.30	平成7年	〃
	看護学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(看護学)	0.93	令和5年	〃
況	農学研究科 農学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.87	平成20年 平成20年	熊本県上益城郡益城町杉堂871-12 〃
	生物学研究科 生物学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.75	令和2年 令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1 〃

附属施設の概要	名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 101,409.66㎡、建物 84,742.15㎡ 名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 44,303.19㎡ 名称：望星丸 目的：海洋調査研修 所在地：東京都（船籍港） 設置年月：平成5年3月（進水の年月） 規模等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m	
---------	--	--

学校法人東海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学 定員	収容定員
文学部	文明学科		60	—	240
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200
		西洋史専攻	50	—	200
		考古学専攻	30	—	120
	日本文学科		90	—	360
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360
文化社会学部	アジア学科		70	—	280
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280
	北欧学科		60	—	240
	文芸創作学科		60	—	240
	広報メディア学科		100	—	400
	心理・社会学科		90	—	360
教養学部	人間環境学科		120	—	480
	芸術学科		70	—	280
児童教育学部	児童教育学科		150	—	600
体育学部	体育学科		120	—	480
	競技スポーツ学科		170	—	680
	武道学科		60	—	240
	生涯スポーツ学科		120	—	480
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		70	—	280
	健康学部	健康マネジメント学科		200	—
法学部	法律学科		300	—	1200
政治経済学部	政治学科		200	—	800
	経済学科		200	—	800
経営学部	経営学科		230	—	920
国際学部	国際学科		200	—	800
観光学部	観光学科		200	—	800
情報通信学部	情報通信学科		240	—	960
理学部	数学科		80	—	320
	情報数理学科		80	—	320
	物理学科		80	—	320
	化学科		80	—	320
	情報理工学部	情報科学科		100	—
コンピュータ応用工学科		100	—	400	
情報メディア学科		100	—	400	
建築都市学部	建築学科		240	—	960
	土木工学科		100	—	400
工学部	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360
		航空操縦学専攻	50	—	200
	機械工学科		140	—	560
	機械システム工学科		140	—	560
	電気電子工学科		120	—	480
	医工学科		80	—	320
	生物工学科		100	—	400
	応用化学科		100	—	400
医学部	医学科		118	—	708
	看護学科		95	—	380
海洋学部	海洋理工学科	海洋理工学専攻	130	—	520
		航海学専攻	20	—	80
	水産学科		120	—	480
	海洋生物学科		80	—	320
人文学部	人文学科		180	—	720
文理融合学部	経営学科		130	—	520
	地域社会学科		100	—	400
	人間情報工学科		70	—	280
農学部	農学科		80	—	320
	動物科学科		80	—	320
	食生命科学科		70	—	280
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440
	国際コミュニケーション学科		80	—	320
生物学部	生物学科		75	—	300
	海洋生物科学科		75	—	300
計			6863	—	27688

令和8年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
文化社会学部	アジア学科		70	—	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報メディア学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
教養学部	人間環境学科		120	—	480	
	芸術学科		70	—	280	
児童教育学部	児童教育学科		150	—	600	
体育学部	体育学科		120	—	480	
	競技スポーツ学科		170	—	680	
	武道学科		60	—	240	
	生涯スポーツ学科		120	—	480	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		70	—	280	
	健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800
法学部	法律学科		300	—	1200	
政治経済学部	政治学科		200	—	800	
	経済学科		200	—	800	
経営学部	経営学科		230	—	920	
国際学部	国際学科		200	—	800	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報通信学科		240	—	960	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
	情報理工学部	情報科学科		100	—	400
コンピュータ応用工学科		100	—	400		
情報メディア学科		100	—	400		
建築都市学部	建築学科		240	—	960	
	土木工学科		100	—	400	
工学部	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	機械工学科		140	—	560	
	機械システム工学科		140	—	560	
	電気電子工学科		120	—	480	
	医工学科		80	—	320	
	生物工学科		100	—	400	
	応用化学科		100	—	400	
医学部	医学科		110	—	660	臨時定員増(8)は令和7年度まで
	看護学科		95	—	380	
海洋学部	海洋理工学科	海洋理工学専攻	130	—	520	
		航海学専攻	20	—	80	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		80	—	320	
人文学部	人文学科		180	—	720	
文理融合学部	経営学科		130	—	520	
	地域社会学科		100	—	400	
	人間情報工学科		70	—	280	
農学部	農学科		80	—	320	
	動物科学科		80	—	320	
	食生命科学科		70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440	
	国際コミュニケーション学科		80	—	320	
生物学部	生物学科		75	—	300	
	海洋生物科学科		75	—	300	
計			6855	—	27640	

令和7年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16
		(D)	4	—	12
	史学専攻	(M)	8	—	16
		(D)	4	—	12
	日本文学専攻	(M)	8	—	16
		(D)	4	—	12
	英文学専攻	(M)	4	—	8
		(D)	2	—	6
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16
		(D)	4	—	12
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20
		(D)	5	—	15
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20
		(D)	5	—	15
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20
		(D)	5	—	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40
		(D)	3	—	9
健康学研究科	健康マネジメント学専攻	(M)	6	—	12
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16
	物理学専攻	(M)	12	—	24
	化学専攻	(M)	12	—	24
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50
	機械工学専攻	(M)	75	—	150
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140
	看護学専攻	(M)	8	—	16
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16
計			557	—	1265

令和8年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40	
		(D)	3	—	9	
健康学研究科	健康マネジメント学専攻	(M)	6	—	12	
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	情報理工学専攻	(M)	40	—	80	研究科の専攻の設置(届出)
	電気電子工学専攻	(M)	20	—	40	定員変更(△30)
	応用理化学専攻	(M)	40	—	80	定員変更(△5)
	建築土木工学専攻	(M)	35	—	70	定員変更(10)
	機械工学専攻	(M)	85	—	170	定員変更(10)
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	20	—	40	定員変更(△10)
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
	看護学専攻	(M)	8	—	16	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16	
計			572	—	1295	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(工学研究科情報理工学専攻 修士課程)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基幹 教員以外 の教員		
研究科 共通科目	工学倫理知財特論	1前		2			○								1	※演習	
	Technical English for Engineers	1前		2			○				1						
	English Presentation for Engineers	1後			2		○								1		
	電気回路学特論	1後			2		○								1		
	応用理化学特論	1後			2		○								1		
	建設マネジメント特論	1前			2		○								1		
	機械工学特論	1後			2		○								1		
	生体工学特論	1前			2		○								1		
小計（8科目）		—	—	4	12	0	—			0	1	0	0	0	7		
専攻 共通科目	情報理工学研究概論	1前		2			○			8	2	2				オムニバス	
	情報理工学研究ゼミナール 1	1前		2				○		16	5	3					
	情報理工学研究ゼミナール 2	1後		2				○		16	5	3					
	情報理工学研究ゼミナール 3	2前		2				○		16	5	3					
	情報理工学研究ゼミナール 4	2後		2				○		16	5	3					
	小計（5科目）		—	—	10	0	0	—			16	5	3	0	0		0
専攻 領域科目	ディープラーニング特論	1・2後			2		○					1				※演習	
	機械学習特論	1・2前			2		○			1						※演習	
	ソフトコンピューティング特論	1・2後			2		○				1					※演習	
	データサイエンス特論	1・2後			2		○			1							
	情報数理応用特論	1・2後			2		○				1						
	アルゴリズムとデータ構造特論	1・2前			2		○			1							
	デジタル信号処理特論	1・2前			2		○				1					※演習	
	量子情報特論	1・2前			2		○			1							
	神経情報科学特論	1・2前			2		○			1							
	生命情報学特論	1・2前			2		○			1							
	環境情報特論	1・2後			2		○			1						※演習	
	電磁気学特論	1・2後			2		○			1							
	小計（12科目）		—	—	0	24	0	—			5	2	1	0	0	0	
	ロボティクスシミュレーション特論	1・2後			2		○			1							
	ロボットビジョン特論	1・2前			2		○			1							
制御工学特論	1・2前			2		○			1								
システムモデリング特論	1・2後			2		○				1							
LSIシステム設計特論	1・2後			2		○					1						
光工学特論	1・2前			2		○			1								
光エレクトロニクス特論	1・2前			2			○		1								
小計（7科目）		—	—	0	14	0	—			5	1	1	0	0	0		
情報 メディア 領域	バーチャルリアリティ特論	1・2後			2		○			1						※演習	
	映像コンテンツテクノロジー特論	1・2後			2			○				1				※講義	
	メディアアート特論	1・2後			2		○			1						※演習	
	メディア表現特論	1・2後			2		○			1						※演習	
	フィジカルコンピューティング特論	1・2後			2			○			1					※講義	
	人間工学特論	1・2前			2			○		1						※講義	
	画像工学特論	1・2前			2		○			1						※演習 オムニバス ※演習	
	情報通信ネットワーク特論	1・2前			2		○				1						
	情報社会特論	1・2前			2		○										
	小計（9科目）			—	—	0	18	0	—			6	2	1	0		0
合計（41科目）		—	—	14	68	0	—			16	6	3	0	0	7		
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
①必修科目 研究科共通科目において4単位修得。 専攻共通科目において10単位修得。 ②選択必修科目 「電気回路学特論」、「応用理化学特論」、「建設マネジメント特論」、「機械工学特論」、「生体工学特論」のうち、1科目2単位修得。 ③選択科目 専攻領域科目、研究科共通科目より、合わせて14単位以上修得。 ①②③の合計で30単位以上を修得し、修士論文の審査並びに最終試験に合格すること。									1 学年の学期区分				2 学期				
									1 学期の授業期間				1 4 週				
									1 時限の授業時間				1 0 0 分				

授 業 科 目 の 概 要				
(工学研究科情報理工学専攻 修士課程)				
区 科 分 目	授業科目の名称	主要授 業科目	講義等の内容	備考
研 究 科 共 通 科 目	工学倫理知財特論		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 工学研究科は、東海大学建学の精神に基づき、高度の専門性と豊かな人間性を兼ね備え国際的な視野を持った人材の育成を教育の理念としている。本科目は、これらの理念を具現化させるために、公平な歴史観、世界観に基づいた倫理と社会貢献への熱意を持った人材育成を目的とし、研究者や技術者が持つべき正しい倫理観や国家の枠を超えた社会貢献のあり方について教授すると共に、受講生が自ら考え判断し行動できる力を身に付けることを目指す。 また、自らの研究開発の成果を社会貢献につなげることができるよう、知的財産権、起業や会社経営、商品化に関わる法規制等の基礎知識を学ぶ。	
	Technical English for Engineers		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 本科目では、受講生が修士研究を遂行していくうえで直面する技術英語を取り上げ、読む、書く、聞く、話すという基本的な表現の学習を通して英語能力の向上を目指す。具体的には技術的な文章の作成能力や図等の説明能力の涵養、発音の訓練や用語の習得を通じて、備えておくべき英語能力を認識させるとともに、いま補強すべき英語能力は何かを各自に把握させる。 なお、本科目は、「ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS」を履修するための基礎的科目である。	
	English Presentation for Engineers		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 本科目は、修士研究に関する内容を英語で発表する際、的確な発表準備ができるような能力の涵養を目的としている。英語での発表に不可欠な事項を十分に解説したうえで、実際に発表する訓練を繰り返すことにより、上記能力を身に付けさせる。 本科目において学習する主要な事項には、話し方、話の構成や編成、視覚の効果、聞き取る能力や口述筆記、及び質疑応答等が挙げられる。特に重要な事項は、効果的な論述能力（声や身体動作）と発表内容の構成である。	
	電気回路学特論		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 電気回路学は、電気系分野のみならず、理工系の広い分野において種々の理論の基礎をなす学問である。そのため、理工系の学生にとって電気回路学を深く理解することは、自らの専門性を高める上でも大変重要である。 本科目では、電気回路の各種法則および定理の物理的意味を解説するとともに、各種の回路解析法について教授を行う。さらに、電気回路理論の抽象化された表現から、具体的な電気回路を用いた解説までを行うことで、電気回路理論の理解を深化させる。加えて講義で取り扱う理論のさまざまな応用例についても教授を行い、実践的な電気回路学を修得することも目標とする。	
	応用理化学特論		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 本科目は、応用理化学分野を構成する応用化学・生物工学領域に関する横断的な知識や素養を修得することを目標とし、各領域に関する専門基礎や最新の研究成果に関する講義を行い、社会で活躍するために必要な知識や技術となることを周知・理解させる。 応用化学領域については、身近な化学とその応用に関する知識を教授するとともに、資源・環境・エネルギー問題に触れる。生物工学領域については、生命を構成する分子に触れながら最新のバイオテクノロジーを教授するとともに、感染症と免疫、遺伝子異常と疾患について解説する。	
	建設マネジメント特論		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 建設マネジメントとは、あらゆる土木・建築プロジェクトを遂行するにあたり、企画、設計、発注、工事、引き渡しの各段階において、スケジュール管理、コスト管理、品質管理、情報管理、労務管理、安全管理などを行うマネジメント全般に關係する業務のことを言う。言い換えれば、品質の良い建造物を安全、確実に建設するための管理手法であり、1960年代のアメリカで生まれ、現在では広く採用され、我が国においては、近年、建築費の透明化やコストダウンを求める社会要請を背景として、国土交通省を中心に建設マネジメントへの関心が高まっている。 本科目では、建設事業における調査・企画、計画、設計、施工、管理・運用、維持・保全の各プロセスの遂行に関し、プロジェクトマネジメント、リスクマネジメントなど種々のマネジメント手法および現在の動向や課題について講義し、関連した演習により理解を促す。	講義 16.6時間 演習 6.7時間
	機械工学特論		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 機械工学は、諸産業の中で最も広い分野を占め、あらゆる産業の基礎をなすものである。したがって、機械工学の持つ内容は、他の工学と比較してきわめて広範囲なものとなっている。一方、最近の先端技術のめざましい発展に伴い、その現状を網羅的に修得することが量・質共に難しくなっている。そこで本科目では、機械工学の専門分野の研究について説明する。また、研究事例を通して応用的な知識を修得することを目指す。 具体的には、機械系4力学（流体力学・熱力学・材料力学・機械力学）を始め、ロボット工学、制御工学、MEMS、MicroTAS、トライボロジー、加工学に関する、先進的かつ世界的な研究内容について講義する。	
	生体工学特論		研究科共通科目は、広い分野に目を向け、健全な倫理観と国際的視野を育成することを目的としている。 生体工学は、生体の構造と機能の医学的な理解を基礎に、工学的に生体を理解し、その結果を医療治療機器へ応用することを目的とする。本科目では、生体の諸特性、すなわち生体の構造をはじめとして、流体力学的特性、光・電磁気学的特性、材料科学的特性などについて専門的理解を深める。さらに生体現象解明のためのモデル化と数値解析法、実験・研究法、生体計測技法などについて説明し、特に無侵襲・無拘束計測技術とその医学応用技術について講義する。これに加え医療治療機器の評価技術についても議論する。	

専攻共通科目	情報理工学研究概論	(概要) 生成型AIの著しい発展に象徴されるように、現代はコンピュータとネットワークによって「情報」が生成され、それによって「人間」社会が大きく影響を受ける状況となっている。このため、「人間」と「情報」の関係を有機的に捉え、生じている課題や問題の本質を洞察して未知の課題を想定し、「人間」と「情報」のあり方を探求する。「人間と情報が共に社会を創っていく「共創」」の考えが重要となっており、これからの時代は、人間と情報の共創による未来社会の構築というビジョンを持つ新たなタイプの情報人材が必要である。 このような背景から、本科目では、人間・情報共創社会を担えるようになるための考え方を身に付けることを目的とし、様々な分野における人間・情報の共創を象徴する研究について、オムニバス形式にて講義するものである。 なお、「黒田輝」が科目責任者として、各回の授業が適切に連動するよう、教員間の調整、授業運営を行う。 (オムニバス方式／全14回) (5 黒田輝／2回) 本科目の概要・目的、テーマ「人間・情報の共創という考え方：医療における象徴的な例」 科目責任者として、「人間」と「情報」の関係を有機的に捉えて生じている課題や問題の本質を洞察して未知の課題を想定する。「人間」と「情報」のあり方の探求について講義したうえで、「人間・情報の共創という考え方：医療における象徴的な例」をテーマとして、次の内容を講義する。 医療における画像診断情報は患者のその後の人生を左右しうる。AIをはじめとした情報技術は、MRIなどの画像診断装置がもたらす患者体内の画像を処理・加工して医師に示す。医師は示された画像のどこまでが真の体内情報で、どこからが「作られた」情報であるかを識別できない状態で診断を下し、それがAIにとっての新たな学習画像となりうる。一方、AIは医師が気づかない疾患部位を示す可能性もあり、医師はAIから学ぶことになる。このように医療においては今後医師とAIが共に新たな知見を積み重ねてゆく必要がある。本講義ではこのような医療における人間と情報の共創に迫る。 (2 稲葉毅／1回) テーマ「人間と機械のインタラクション技術」 近年、製造現場だけでなく日常生活においても、人と一緒に働くロボットや機械が目目されている。パワーアシストシステム、ロボットの遠隔操作、介護ロボット、リハビリロボットなどの「人間機械共存システム」は、一方的に人から操縦されるものではなく、人と機械が互いに影響しあう「人間と機械のインタラクション」と捉えることが重要になる。本講義では、人が機械や道具を利用する際に自分自身の特性を適応的に変化させる性質に注目した、操作しやすく、人に優しい機械システムの実現を目指す制御技術について論じる。 (6 柴田隆史／2回) テーマ「人の特性に基づいた映像メディア表現」 現実空間と仮想空間を融合させる複合現実 (Mixed Reality) のように、今後の社会では映像メディアを三次元空間で活用することが期待されている。安心安全なメディア表現を実現するためには、人の特性、特に奥行き知覚や立体視などの視覚特性を考慮することが重要となる。本講義では、人と映像メディアの関係性に着目して、未来社会における映像メディアの効果的な活用を探る。 (16 室谷裕志／1回) テーマ「光と情報」 人は五感の中でも眼から多くの情報を得て生活している。この時の情報は色、明るさなど全て可視光線により運ばれる。また、自動車の自動運転では路面状況や障害物などの必要な情報を赤外線により得ている。ブルーレイディスク、DVD、CDなどには光を用いて情報が記録されている。この他にも自動ドアのセンサー、バーコードリーダーなど、我々の身の回りの様々なところで様々な光センサーが活躍して、安心・安全・便利な生活を送ることを助けている。本講義では、人が眼で色や形を認識する仕組みや各種光センサーの使用例を通して、我々の未来の生活への光の関わりを考える。 (1 稲垣克彦／1回) テーマ「ロボット工学における情報処理技術の展開」 ロボット工学は、機械工学、電気電子工学そして情報処理技術を核とした典型的な学際領域である。その中でも情報処理技術の重要性は高まる一方でであり、その技術者不足が深刻な問題になっている。本講義では、ロボットおよびメカトロニクス関連の技術開発において、その設計段階から制御システムの実装まで、情報処理技術がどのように活用されているかを概説する。 (17 宇津祐祐／1回) テーマ「ICT・インターネットの過去・現在・未来」 現代社会において、ICT (情報通信技術) は不可欠であり、様々な分野で重要な役割を果たしている。これまでに行政サービス、医療、教育など社会全般で導入が進み、近年では災害時の情報共有においてもその活用が進んでいる。ビジネスにおいては業務データの共有や取引についてオンラインで行うことが一般的であり、個人の視点からも仕事や学習、娯楽において欠かせない存在である。本講義では、ICTを中心に特にインターネットの発展の歴史、現在の姿、そして未来について考える。そして、ICTが社会に与える影響や発展の過程に焦点を当て、テクノロジーの変遷についての理解、今後の展望に対しての洞察を得る。 (10 中島孝／1回) テーマ「情報科学は地球環境と人類社会を護れるか？」 ヒトが科学を推進する原動力のひとつは、「我々人類の存在意義を知りたい」というものである。人類はどこからきたのか、いまどこにいるのか、そしてどこへ向かうのか、は多くの人にとって普遍的な問いである。21世紀の現在、人類が直面している問題は多岐にわたるが、私達の居住空間である地球環境の悪化は、我々の存在にもかかわる看過できない重大事項である。本講義では、現在の地球環境の把握や問題解決のために情報科学がどのように役に立っているか、地球科学と気象学の知見を踏まえて講義する。 (18 小坂崇之／1回) テーマ「VRで広がる医療の未来」 現代社会は情報技術の急速な進化により大きな変革を迎えている。その中で、生成型AIの進展やコンピュータとネットワークによる情報生成が人間社会に与える影響は著しく、特に医療分野での技術革新は顕著である。本講義では、VR技術が医療にもたらす未来の可能性に焦点を当てる。 (8 高雄元晴／1回) テーマ「認知科学入門ーヒトの脳と心の情報処理過程を知るー」 認知科学は情報処理という観点からヒトの脳と心の働きを研究する学問である。また、認知科学と人工知能は歴史的な起源が同じであるとともに、両学問の発展は軌を一にしてきた。いわば人工知能を深く理解し、真に人間の生活と社会に役立てるためには、認知科学に関する知識は必須である。本講義では、認知科学に関して、その基礎、人工知能との関連、そして認知科学から見た人工知能の倫理的側面について解説する。 (7 榎祥探／1回) テーマ「データと情報、セキュリティへの道」 最近のChatGPTや生成AIのブームは、巨大なデータの収集と分析を基盤にしている。このように、5G時代を迎え、「データ」は、人工知能 (AI)、クラウド、モノのインターネット (IoT) などの技術の必須要素でありながら、第4次産業革命において重要な位置付けにある。しかしながら、収集するデータの巨大化と共に必要な情報のみ取り出す手法もますます難しくなり、その一方でデータを収集し活用する過程で、個人のプライバシーを侵害する可能性が増加するなど新たなセキュリティ問題が生じる。本講義では、データ科学とそこから情報セキュリティに連携する問題を議論しながら、その基礎、関連知識について論じる。 (23 木下裕磨／1回) テーマ「生成型AIの原理」 2010年代頃から始まった第3次人工知能 (Artificial intelligence、AI) ブームは、ChatGPTやstable diffusionなどのいわゆる生成型AIが2022年に一般に広く公開されたことで、社会にさらに大きな衝撃を与え新たな展開を迎えている。生成型AIは、これまでの人工知能システムと一線を画している。具体的には、まるで人間のような自然な対話ができ、プロのアーティストが描いたようなテキストの画像を生成できるなど、様々な専門的な知識・能力を備えているかのような応答を返すことができる。本講義では、人間・情報共創社会の基盤となるであろう生成型AIへの理解を深めるため、これまでのAIである深層学習と生成型AIの原理について論じ、その可能性を探る。 (25 茂木龍太／1回) テーマ「CGキャラクターとAI技術」 近年、コンピュータグラフィックスや生成型AIの急速な発展で、ヴァーチャルインフルエンサーや俳優のデジタル化などが盛んに行われている。その理由はインフルエンサーや俳優が抱えるリスクやコンテンツの制作コストの削減など様々な需要からである。本講義では、これらの実例を紹介するとともに、コンテンツ制作におけるCGキャラクターの制作技術と運用について論じる。	オムニバス方式
--------	-----------	---	---------

情報理工学研究ゼミナール 1	(概要) 情報理工学研究ゼミナールは、情報理工学専攻の領域（情報サイエンス・情報テクノロジー・情報メディア）に関する研究を大学院生が自ら推進し、その結果として修士論文を作成できるよう、研究指導を行うものである。「情報理工学研究概論」及び「専攻領域科目」等の履修によって得られた知識を踏まえ、指導教員が直接、研究内容を中心とした高度の専門知識、研究におけるものの考え方、研究の方法、具体的な技術、研究発表の仕方などを授ける。指導は少人数あるいは個別で行う。このような指導を通じて大学院生に、問題を発見する能力、その解決を図る能力、具体的な研究手法、その他研究開発に携わる研究者・技術者としての素養を身に付けさせる。 「情報理工学研究ゼミナール1」では、専門研究分野における社会的要請や技術課題の調査を進め、研究テーマ・研究目的を設定する。研究課題を解決するために必要な専門知識と柔軟な思考力を養い、研究計画を立案する。その過程では文献調査も行う。研究計画に基づいて研究を開始する。 (1 稲垣克彦) 各種移動ロボットを中心としたロボット・メカトロニクスシステムの機構設計とその制御システムの構築、次世代に通用するロボットの実現に関する研究 (2 稲葉毅) 人間機械共存系を対象とした人の操作動特性の解析と、その適応的性質を利用した操作しやすい機械システムの制御手法に関する研究 (3 内田理) 災害時におけるソーシャルメディアやインターネット、AI、自然言語処理技術の利活用に関する研究 (4 辛島光彦) 情報社会におけるユーザの諸特性の解明並びに諸特性に基づいた製品・システム設計開発及び評価に関する研究 (5 黒田輝) MRI (Magnetic Resonance Imaging, 磁気共鳴画像化法) 並びにシミュレーションを用いた生体計測に関する研究 (6 柴田隆史) 人の心理特性や生理特性、行動特性に基づいたメディアの効果的な活用に関する研究 (7 慎祥授) ビッグデータを活用したデータ分析手法とデータサイエンスを用いた情報セキュリティ及びサイバーセキュリティ教育に関する研究 (8 高雄元晴) ヒトと動物の脳機能に関する神経情報科学的研究 (9 竹村憲太郎) 人間計測のためのビジョンシステム及びヒューマンコンピュータインタラクションへの応用に関する研究 (10 中島孝) 人工衛星を用いた地球環境の観測手法やデータ解析手法に関する研究 (11 濱本和彦) バーチャル情報を含む環境における人の認知・行動特性及びその身体性との関連と、それらの応用技術に関する研究 (12 藤川知栄美) 次世代光ネットワーク用光機能デバイスの研究及び全方位型裸眼立体ディスプレイに関する研究 (13 前田秀一) 自然に学び物理で考え化学で創るマテリアルと、デジタルを融合させる研究 (14 牧野浩典) 量子力学の原理を利用した情報処理技術（量子アニーリングと最適化問題）、及び低次元量子物性に関する研究 (15 丸山有紀子) 情報社会における問題に対するユーザの意識、情報接触行動に関する研究 (16 室谷裕志) 薄膜による光制御技術及び視覚を中心とした感性工学に関する研究 (17 宇津圭祐) 安全・安心のための情報メディアに関する研究 (18 小坂崇之) エンタテインメントシステムを用いた実世界型シリアスゲームに関する研究 (19 染谷博司) 遺伝的アルゴリズムなどの進化型計算を中心とした確率的最適化及びソフト・コンピューティングに関する研究 (20 高橋智博) デジタル信号処理に関する研究 (22 村松聡) 知能ロボット（システム）に関する研究を主軸として、ロボットのハードウェア開発から環境認識に基づく動作計画、制御などに関する研究 (23 木下裕磨) 深層学習に基づく映像・音響情報のセンシング及びレンダリングに関する研究 (24 土屋秀和) LSIの信頼性（テスト方法・テスト用回路）向上及びリコンフィギュラブルデバイスを活用したシステムに関する研究 (25 茂木龍太) 映像やゲーム、漫画などメディアコンテンツ制作の初期段階における創作手法や方法論に関する研究
-------------------	--

情報理工学研究ゼミナール 2	(概要) 情報理工学研究ゼミナールは、情報理工学専攻の領域（情報サイエンス・情報テクノロジー・情報メディア）に関する研究を大学院生が自ら推進し、その結果として修士論文を作成できるよう、研究指導を行うものである。「情報理工学研究概論」及び「専攻領域科目」等の履修によって得られた知識を踏まえ、指導教員が直接、研究内容を中心とした高度の専門知識、研究におけるものの考え方、研究の方法、具体的な技術、研究発表の仕方などを授ける。指導は少人数あるいは個別で行う。このような指導を通じて大学院生に、問題を発見する能力、その解決を図る能力、具体的な研究方法、その他研究開発に携わる研究者・技術者としての素養を身に付けさせる。 「情報理工学研究ゼミナール2」では、研究を遂行するための専門知識を養うとともに、修得した知識と立案した研究計画に基づいて自立的に研究を進める。専門知識を駆使して装置やソフトウェアの設計・開発、実験やシミュレーションで得られたデータの解析を行う。研究結果の理論的考察を行い、文献に示されている過去の研究結果との比較検討を通じて自らの研究の独創性を検討する。問題点については、培ってきた専門知識と健全な倫理観に基づく解決策を考え、指導教員との議論を経て解決を図り、適宜、当初設定した研究計画の見直しを行う。 (1 稲垣克彦) 各種移動ロボットを中心としたロボット・メカトロニクスシステムの機構設計とその制御システムの構築、次世代に通用するロボットの実現に関する研究 (2 稲葉毅) 人間機械共存系を対象とした人の操作動特性の解析と、その適応的性質を利用した操作しやすい機械システムの制御手法に関する研究 (3 内田理) 災害時におけるソーシャルメディアやインターネット、AI、自然言語処理技術の利活用に関する研究 (4 辛島光彦) 情報社会におけるユーザの諸特性の解明並びに諸特性に基づいた製品・システム設計開発及び評価に関する研究 (5 黒田輝) MRI (Magnetic Resonance Imaging, 磁気共鳴画像化法) 並びにシミュレーションを用いた生体計測に関する研究 (6 柴田隆史) 人の心理特性や生理特性、行動特性に基づいたメディアの効果的な活用に関する研究 (7 榎梓葵) ビックデータを活用したデータ分析手法とデータサイエンスを用いた情報セキュリティ及びサイバーセキュリティ教育に関する研究 (8 高雄元晴) ヒトと動物の脳機能に関する神経情報科学的研究 (9 竹村憲太郎) 人間計測のためのビジョンシステム及びヒューマンコンピュータインタラクションへの応用に関する研究 (10 中島孝) 人工衛星を用いた地球環境の観測手法やデータ解析手法に関する研究 (11 濱本和彦) パーソナル情報を含む環境における人の認知・行動特性及びその身体性との関連と、それらの応用技術に関する研究 (12 藤川知栄美) 次世代光ネットワーク用光機能デバイスの研究及び全方位型裸眼立体ディスプレイに関する研究 (13 前田秀一) 自然に学び物理で考え化学で創るマテリアルと、デジタルを融合させる研究 (14 牧野浩典) 量子力学の原理を利用した情報処理技術（量子アニーリングと最適化問題）、及び低次元量子物性に関する研究 (15 丸山有紀子) 情報社会における問題に対するユーザの意識、情報接触行動に関する研究 (16 室谷裕志) 薄膜による光制御技術及び視覚を中心とした感性工学に関する研究 (17 宇津圭祐) 安全・安心のための情報メディアに関する研究 (18 小坂崇之) エンタテインメントシステムを用いた実世界型シリアスゲームに関する研究 (19 染谷博司) 遺伝的アルゴリズムなどの進化型計算を中心とした確率的最適化及びソフト・コンピューティングに関する研究 (20 高橋智博) デジタル信号処理に関する研究 (22 村松聡) 知能ロボット（システム）に関する研究を主軸として、ロボットのハードウェア開発から環境認識に基づく動作計画、制御などに関する研究 (23 木下裕磨) 深層学習に基づく映像・音響情報のセンシング及びレンダリングに関する研究 (24 土屋秀和) LSIの信頼性（テスト方法・テスト用回路）向上及びリコンフィギュラブルデバイスを活用したシステムに関する研究 (25 茂木龍太) 映像やゲーム、漫画などメディアコンテンツ制作の初期段階における創作手法や方法論に関する研究
-------------------	---

情報理工学研究ゼミナール 3	(概要) 情報理工学研究ゼミナールは、情報理工学専攻の領域（情報サイエンス・情報テクノロジー・情報メディア）に関する研究を大学院生が自ら推進し、その結果として修士論文を作成できるよう、研究指導を行うものである。「情報理工学研究概論」及び「専攻領域科目」等の履修によって得られた知識を踏まえ、指導教員が直接、研究内容を中心とした高度の専門知識、研究におけるものの考え方、研究の方法、具体的な技術、研究発表の仕方などを授ける。指導は少人数あるいは個別で行う。このような指導を通じて大学院生に、問題を発見する能力、その解決を図る能力、具体的な研究手法、その他研究開発に携わる研究者・技術者としての素養を身に付けさせる。 「情報理工学研究ゼミナール3」では、研究を遂行するためにさらに広い専門知識と高い見識、倫理観を養う。研究計画に基づいて研究を進め、得られた研究結果の位置付けやインパクトについて検討する。学会や論文としての成果発表や関連研究者との情報交換などを通じて、研究結果や「人間と情報が創る未来の社会」に向けて更に深い議論を行う。 (1 稲垣克彦) 各種移動ロボットを中心としたロボット・メカトロニクスシステムの機構設計とその制御システムの構築、次世代に通用するロボットの実現に関する研究 (2 稲葉毅) 人間機械共存系を対象とした人の操作動特性の解析と、その適応的性質を利用した操作しやすい機械システムの制御手法に関する研究 (3 内田理) 災害時におけるソーシャルメディアやインターネット、AI、自然言語処理技術の利活用に関する研究 (4 辛島光彦) 情報社会におけるユーザの諸特性の解明並びに諸特性に基づいた製品・システム設計開発及び評価に関する研究 (5 黒田輝) MRI (Magnetic Resonance Imaging, 磁気共鳴画像化法) 並びにシミュレーションを用いた生体計測に関する研究 (6 柴田隆史) 人の心理特性や生理特性、行動特性に基づいたメディアの効果的な活用に関する研究 (7 慎祥揆) ビックデータを活用したデータ分析手法とデータサイエンスを用いた情報セキュリティ及びサイバーセキュリティ教育に関する研究 (8 高雄元晴) ヒトと動物の脳機能に関する神経情報科学的研究 (9 竹村憲太郎) 人間計測のためのビジョンシステム及びヒューマンコンピュータインタラクションへの応用に関する研究 (10 中島孝) 人工衛星を用いた地球環境の観測手法やデータ解析手法に関する研究 (11 濱本和彦) バーチャル情報を含む環境における人の認知・行動特性及びその身体性との関連と、それらの応用技術に関する研究 (12 藤川知栄美) 次世代光ネットワーク用光機能デバイスの研究及び全方位型裸眼立体ディスプレイに関する研究 (13 前田秀一) 自然に学び物理で考え化学で創るマテリアルと、デジタルを融合させる研究 (14 牧野浩典) 量子力学の原理を利用した情報処理技術（量子アニーリングと最適化問題）、及び低次元量子物性に関する研究 (15 丸山有紀子) 情報社会における問題に対するユーザの意識、情報接触行動に関する研究 (16 室谷裕志) 薄膜による光制御技術及び視覚を中心とした感性工学に関する研究 (17 宇津圭祐) 安全・安心のための情報メディアに関する研究 (18 小坂崇之) エンタテインメントシステムを用いた実世界型シリアスゲームに関する研究 (19 染谷博司) 遺伝的アルゴリズムなどの進化型計算を中心とした確率的最適化及びソフト・コンピューティングに関する研究 (20 高橋智博) デジタル信号処理に関する研究 (22 村松聡) 知能ロボット（システム）に関する研究を主軸として、ロボットのハードウェア開発から環境認識に基づく動作計画、制御などに関する研究 (23 木下裕磨) 深層学習に基づく映像・音響情報のセンシング及びレンダリングに関する研究 (24 土屋秀和) LSIの信頼性（テスト方法・テスト用回路）向上及びリコンフィギュラブルデバイスを活用したシステムに関する研究 (25 茂木龍太) 映像やゲーム、漫画などメディアコンテンツ制作の初期段階における創作手法や方法論に関する研究
-------------------	---

専攻共通科目	情報理工学研究ゼミナール 4	(概要) 情報理工学研究ゼミナールは、情報理工学専攻の領域（情報サイエンス・情報テクノロジー・情報メディア）に関する研究を大学院生が自ら推進し、その結果として修士論文を作成できるよう、研究指導を行うものである。「情報理工学研究概論」及び「専攻領域科目」等の履修によって得られた知識を踏まえ、指導教員が直接、研究内容を中心とした高度の専門知識、研究におけるものの考え方、研究の方法、具体的な技術、研究発表の仕方などを授ける。指導は少人数あるいは個別で行う。このような指導を通じて大学院生に、問題を発見する能力、その解決を図る能力、具体的な研究手法、その他研究開発に携わる研究者・技術者としての素養を身に付けさせる。 「情報理工学研究ゼミナール4」では、育んできた高度な専門知識や国際的視野に基づく健全な倫理観を駆使して研究を発展させ、その成果と今後の課題についてまとめる。研究発表等における議論を経て、研究を更に充実したものに進化させる。2年間の研究成果を修士論文にまとめ、最後に修士論文発表会において、人間と情報の共創による未来社会の構築への貢献を目指し、自らの研究の総括を行う。 (1 稲垣克彦) 各種移動ロボットを中心としたロボット・メカトロニクスシステムの機構設計とその制御システムの構築、次世代に通用するロボットの実現に関する研究 (2 稲葉毅) 人間機械共存系を対象とした人の操作動特性の解析と、その適応的性質を利用した操作しやすい機械システムの制御手法に関する研究 (3 内田理) 災害時におけるソーシャルメディアやインターネット、AI、自然言語処理技術の利活用に関する研究 (4 辛島光彦) 情報社会におけるユーザの諸特性の解明並びに諸特性に基づいた製品・システム設計開発及び評価に関する研究 (5 黒田輝) MRI (Magnetic Resonance Imaging, 磁気共鳴画像法) 並びにシミュレーションを用いた生体計測に関する研究 (6 柴田隆史) 人の心理特性や生理特性、行動特性に基づいたメディアの効果的な活用に関する研究 (7 慎祥揆) ビックデータを活用したデータ分析手法とデータサイエンスを用いた情報セキュリティ及びサイバーセキュリティ教育に関する研究 (8 高雄元晴) ヒトと動物の脳機能に関する神経情報科学的研究 (9 竹村憲太郎) 人間計測のためのビジョンシステム及びヒューマンコンピュータインタラクションへの応用に関する研究 (10 中島孝) 人工衛星を用いた地球環境の観測手法やデータ解析手法に関する研究 (11 濱本和彦) バーチャル情報を含む環境における人の認知・行動特性及びその身体性との関連と、それらの応用技術に関する研究 (12 藤川知栄美) 次世代光ネットワーク用光機能デバイスの研究及び全方位型裸眼立体ディスプレイに関する研究 (13 前田秀一) 自然に学び物理で考え化学で創るマテリアルと、デジタルを融合させる研究 (14 牧野浩典) 量子力学の原理を利用した情報処理技術（量子アニーリングと最適化問題）、及び低次元量子物性に関する研究 (15 丸山有紀子) 情報社会における問題に対するユーザの意識、情報接触行動に関する研究 (16 室谷裕志) 薄膜による光制御技術及び視覚を中心とした感性工学に関する研究 (17 宇津圭祐) 安全・安心のための情報メディアに関する研究 (18 小坂崇之) エンタテインメントシステムを用いた実世界型シリアスゲームに関する研究 (19 染谷博司) 遺伝的アルゴリズムなどの進化的計算を中心とした確率的最適化及びソフト・コンピューティングに関する研究 (20 高橋智博) デジタル信号処理に関する研究 (22 村松聡) 知能ロボット（システム）に関する研究を主軸として、ロボットのハードウェア開発から環境認識に基づく動作計画、制御などに関する研究 (23 木下裕磨) 深層学習に基づく映像・音響情報のセンシング及びレンダリングに関する研究 (24 土屋秀和) LSIの信頼性（テスト方法・テスト用回路）向上及びリコンフィギュラブルデバイスを活用したシステムに関する研究 (25 茂木龍太) 映像やゲーム、漫画などメディアコンテンツ制作の初期段階における創作手法や方法論に関する研究
--------	-------------------	--

専攻領域科目	情報サイエンス領域	ディープラーニング特論	2022年に社会に大きな衝撃を与えたChatGPTやstable diffusionなどのいわゆる生成系AIは、Webサービスとして広く一般に公開されており、自然言語で命令を与えられるために誰でも簡単に利用できる。生成系AIの極めて高い汎用性と有用性から、最先端のディープラーニング技術を理解し生成系AIを実装できるスキルの重要性はますます高まっている。 本科目は、ディープラーニングに関する最新の技術を身に付けることを目的とし、生成系AIを理解・実装するために必要となる、ディープニューラルネットワークのアーキテクチャや生成モデル、自己教師あり学習等のトピックについて講義し、それらを実装するプログラミング演習を行い、ディープラーニング技術の実装技術を身に付けさせる。	講義 15.0時間 演習 8.3時間
		機械学習特論	ハードウェアの発達によって高速な並列計算や大量データの入手が可能になり、機械学習技術を実世界の問題に適用できるようになった。加えて、インターネット上で様々なフリーソフトが提供されており、高性能なコンピュータ、特にGPUを用意するだけで、誰でも自分のデータに様々な機械学習技術を適用することができるが、機械学習における研究開発を行うためには、アルゴリズムの理論的な詳細を理解することが重要である。 本科目では、機械学習の理論について、基礎的な数学から高度な手法までを講義するとともに、プログラミング言語を用いた演習を行い、理論及び実践の両面から機械学習の理解を深めることを目標とする。	講義 13.3時間 演習 10.0時間
		ソフトコンピューティング特論	高度化する情報化社会においてコンピュータの重要性は年々増加しているが、本質的にコンピュータは正確性や確実性を必要とするため、複雑で不確実性を有する問題に対して適切な対応が困難な場合がある。このような問題に対して、人間や生物が行っている多様な問題解決手法や行為をもとに、適度な正確性、不確実性の対応、扱いやすさ、頑健性、低コストを実現するための情報処理手法として、ファジィ、ニューロ、確率推論を基盤技術としたソフトコンピューティングが提唱されている。 本科目では、ソフトコンピューティングの中でもファジィ理論、ニューラルネットワーク、進化的計算など計算知能について講義するとともに、ソフトコンピューティングによる実システムへの適用例についても説明する。	
		データサイエンス特論	本科目では、社会や科学における問題を、統計科学、プログラミング、データベース技術などのデータを活用する技術で解決し、新たな価値を創出する実践的な技術を習得することを目指す。 確率・統計は、データサイエンスにとって必要不可欠な知識であり、確率・統計の理論から応用までを学び、実践的な課題に取り組むことによってデータ分析スキルを向上させる。 確率・統計の基礎から応用までの内容について講義するとともに、国際的なデータサイエンス関連サイトKaggleの過去のコンペの例題を利用することによって基礎知識だけではないデータ科学の考え方を学び、実際に自らデータ解析手法を考えることができるよう、データ分析について実践的な演習を行う。	講義 11.7時間 演習 11.6時間
		情報数理応用特論	本科目は、情報に関する数理的な手法の基礎を理解すること、情報理工学分野での具体的な応用例を学ぶことを目標とし、情報の数量化、情報科学における数理的技術の代表例である最適化とデータマイニングについて講義する。 最適化については、数理的最適化、確率的最適化、多目的最適化にフォーカスする。データマイニングについては、統計解析の技術を扱う。また、バイオインフォマティクス及び画像処理分野への応用について紹介する。	
		アルゴリズムとデータ構造特論	アルゴリズムとデータ構造は情報工学の基礎的学問であり、プログラムや情報システムの開発に欠かせない基本道具でもある。本科目では、多くの応用分野で生ずる幾何学的問題と最適化問題について講義し、アルゴリズムとデータ構造の設計・解析を学び、より深い理論知識を習得することを目指す。また、アルゴリズムのプログラム実装方法やシステムの開発等についての解説も行う。	
		デジタル信号処理特論	本科目の目標は、デジタル信号処理について、近年のトピックスを含めた高度な知識を習得することである。 フーリエ級数や線形システム解析をはじめとするアナログ信号処理について解説し、デジタル信号やデジタルシステムの古典的解析手法について触れる。また、近年ではコンピュータの性能向上に伴い、デジタル信号処理もサンプル単位での計算では無く、いくつかの観測をまとめたデータベクトルに対して処理を行う場合が多いことから、スパース信号処理をはじめとする現代的なデジタル信号処理技術についても講義する。	
		量子情報特論	旧来からのコンピュータは、回路を集積し微細化することで高性能化を続けてきたが、それも限界に近づいてきた。回路の微細化が原子・分子レベルのスケールに到達し、コンピュータのこれ以上の高性能化が望めなくなったためである。科学者・技術者達は、これまでの技術の枠組みにとらわれない新たな情報処理技術の模索を始め、量子力学の原理を利用して情報処理を行う画期的なコンピュータや絶対に破ることのできない暗号技術の開発に乗り出した。 本科目では、量子技術（量子コンピュータや量子暗号）の原理を理解することを目指す。そのための基礎となる量子物理学について授業の前半で講義し、授業の後半で量子技術について解説する。	
		神経情報科学特論	第二次世界大戦後の電子工学や情報工学の急速な進歩に歩を一にして、脳に関する研究は大きく進んだ。研究の進捗により得られた知見は、医療や教育の分野で社会的に還元されており、特に、脳における情報処理様式は、ニューラルネットワーク技術や人工知能技術に代表されるように情報理工学分野におけるイノベーションにもつながっている。 本科目では、脳の構造と機能について、神経系の原理と発達、言語・感情・視覚・聴覚・臭覚・味覚に関する学習心理学と神経生物学等に関する講義を行うとともに、神経情報科学に関する課題について、受講生自らが問題を設定し、その技術的提案を行い、議論する演習を通じて、神経情報科学研究に関する今後の発展動向について理解を深めさせる。	講義 13.3時間 演習 10.0時間
		生命情報学特論	本科目は、生命現象を司る生体高分子の挙動を、情報学及び計算科学的視点から学習することを目的とし、タンパク質及び核酸配列情報の検索や操作手法について、基本理論を講義し、Webツールを利用したコンピュータ演習を行う。 さらには、計算化学的手法を用いた分子モデリングの学習について、分子力学法や分子軌道法等の分子特性の計算手法概要を講義し、計算ソフトウェアによる演習を実施することにより、分子の挙動についての理解を深めさせる。	講義 15.0時間 演習 8.3時間

情報サイエンス領域	環境情報特論		本科目では、地球環境観測に用いられる人工衛星搭載センサについての基礎から応用までを扱う。対象とするセンサは、主として可視赤外イメージャであるが、適宜マイクロ波センサやレーダ等にも言及する。センサは、対象から反射・放射される電磁波を検出・結集することによって観測画像を得ている。そこで、電磁波とその性質および放射量について整理した後、電磁波を各種アルゴリズムで解析して得られるデータの性質について議論する。授業の進め方として、まず基礎を学び、次に電磁波および放射伝達、最後にセンサの設計手法について学ぶ。	
	電磁気学特論		電磁現象のうちヒトの目に見えるものは極めてわずかであり、その大部分は目に見えない波長領域に幅広く存在している。このため、日常においてはその存在にも気づかずして過ごしてしまうことがある。しかし、様々の情報機器・設備に囲まれた現在社会において、電磁波などの電磁現象は我々の間近に、あるいは我々の身体の中にさえ存在している。本科目は、情報社会の根幹を支える、しかし目に触れることの少ない電磁現象の物理学的基礎と、そこで使われる数学的基礎（特にベクトル解析）を正確に理解することを目標とし、電磁界の時間変化に応じた諸現象に関する講義と、それらの内容を深く理解するための演習を組み合わせて実施する。 電磁気学は、現在の情報関連技術を知るためだけでなく、新たな情報技術・情報科学を創生してゆくためにも必要不可欠な学問である。情報関連技術の単なる使い手としてではなく、その背後にある電磁現象を知りそれらに応用する力を持つ者としての実力を涵養する。	講義 13.3時間 演習 10.0時間
専攻領域科目	ロボティクスシミュレーション特論		ロボット工学において重要な逆運動学について、代数的方法や幾何学的方法を用いても解析的な解を求める事ができない場合、数値計算を用いる方法がある。本科目では、その方法について理論的な解説を行うとともに、これを実現するためのソフトウェアの構築として、UNIX系OSであるLinux上で動作するXAnimateと呼ばれるソフトウェアを利用した構築について講義する。	
	ロボットビジョン特論		デジタル画像から3次元情報を取得する技術は、産業用ロボットの制御や車の自動運転など様々な分野で必要不可欠な技術となっている。機械学習手法が目覚ましい発展を遂げている現在も、3次元計測を行うための幾何的なアプローチは有効であり、基礎理論を理解することは非常に重要である。そこで、本科目では、2次元画像から3次元情報を獲得するために必要な理論、ヒューマンロボットインタラクション等での利用が期待されている、顔や視線計測技術に焦点を当てた3次元計測の応用例について講義する。	
	制御工学特論		制御工学は、ロボットなどの生産機械、航空機・自動車などの輸送機器、化学プラントのプロセス工業等、きわめて多くの分野で適用されており、情報技術者として必要不可欠な知識である。 本科目では、制御系CADを用いて制御工学の諸問題を解く手法について学ぶ。線形代数、ラプラス変換の基礎知識を前提として、まず、制御系CADであるMATLABの基本的な使い方を教授する。その上で、動的システムモデルの取り扱い、時間応答の解析、周波数応答の解析、周波数領域における安定性の解析と補償について講義する。さらに、状態空間に基づく現代制御理論について解説する。	
	システムモデリング特論		現実世界でシステムを確実に動作させるためには、現実の不確実性に対処できる形で動作できるシステムを構築する必要がある。本科目では、ミニビュレータロボットのシステムをモデリングし、確率論に基づく情報処理と併せることでロボットの状態を推定する手法について、Pythonのコード作成により学ぶ。 PythonのライブラリやROSを活用したシミュレータに基づき、確率モデルによる情報表現からベイズ推定に基づくパーティクルフィルタや拡張カルマンフィルタによる状態推定手法、部分マルコフ決定過程やKLDサンプリングによる状態更新の手法や行動計画、制御について講義する。	
	LSIシステム設計特論		近年、LSIは、スマートフォンをはじめとした情報機器など様々な機器に組み込まれ、我々の生活に欠かせない存在となっている。このLSIに関して、デバイス開発や活用によるシステム構築を実現するためには、動作を実現する仕組みである技術面や設計手法並びに手順を理解する必要がある。そこで、本科目では、動作原理をはじめとしたLSIの仕組み及び構造、開発言語としてVerilog-HDLを用いたLSIの設計手法に関して講義する。	
	光工学特論		本科目は、我々の生活の安全・安心・便利に関わる光技術を理解するために必要な知識を得ることを目標とし、情報の入力、出力、伝達、計測等に不可欠な光技術についてその基礎から応用までを取り扱う。また、扱う波長領域として、紫外線、可視光線、赤外線領域だけでなく、近年、注目される波長領域であるTHz領域についても言及する。 光を取り扱う上で必要な幾何光学・波動光学の基礎知識を学んだうえで、光センサー、レーザー、撮像素子、干渉計等の各種光学装置や光デバイスを理解するための光学技術について学ぶ。また、人は多くの情報を眼から光により取り入れていることから、眼における視覚と認識の過程についても学ぶ。	
	光エレクトロニクス特論		本科目は、光技術と電子技術が融合した分野である光エレクトロニクス技術の基礎知識を身につけることを目的とする。演習を中心とした授業により、原子を構成する電子構造の復習、光と物質との相互作用から始め、レーザー光の発振原理を学ばせる。特に鏡を向かい合わせた空間、屈折率分布が存在する空間など特殊な媒質の中を進むレーザー光の振る舞い、電界・磁界・音響・光等を利用し光を制御する技術について修得させ、高度情報化社会の基盤である次世代光通信ネットワークや超精密光計測の理解につなげる。	演習 20.0時間 講義 3.3時間

専攻領域科目	情報メディア領域	バーチャルリアリティ特論	本科目では、バーチャルリアリティを、コンピュータで「時空間」情報を扱うためのインタフェース技術と位置付けて、それによる情報処理技術及びそれによって変化する情報処理の概念や世界観について講義する。 まず、コンピュータの発展と時空間情報処理、バーチャルリアリティの登場、それらの基本概念について述べ、これら時空間情報を再生するためのディスプレイ技術、空間情報にアクセスするためのインタフェース技術について論じる。次に、ネットワークを介して時空間情報を転送・共有する技術、テレプレゼンスについても言及する。さらに演習を通じてバーチャル環境における人の生態学的な認知について検証する。最後に、時空間情報処理が実現することによるコンピュータの役割の変化、人間の生活における新しいコミュニケーションの形について論じる。	講義 16.6時間 演習 6.7時間
		映像コンテンツテクノロジー特論	映像制作におけるキャラクターとストーリーは、外面と内面を表し、コンテンツにおいて最も重要な要素である。しかし、最終的な成果物としては、そのどちらも演出によって飾られるため、キャラクターやストーリーの重要性よりも演出論的な議論や重要性が語られがちである。 本科目では、映像作品の分析や映像制作を通じて映像コンテンツの制作におけるキャラクターやストーリーの重要性について実践的に学ぶ。講義回においては、映像コンテンツにおけるストーリーやキャラクターの役割、演出などを中心にプレプロダクション工程についての知識を学ぶ。演習回においては、前半で既存作品の分析や分類、その結果や考察についての議論を行う。後半で演習回前半の分析や分類結果を応用し、3DCGやスタジオを用いたキャラクターやストーリーの制作を行い、その成果に対する考察や議論を行う。	演習 18.3時間 講義 5.0時間
		メディアアート特論	メディアアートとは、コンピュータなどのテクノロジーを利用した新たな表現とされている。ただし、単純に最新のテクノロジーを使えばいいというわけではない。 本科目の講義では、そもそもアートとは何か、メディアアートとは何を指し、どのような歴史や背景があり、どのような技術が使われ、どのような作品があるのかを学び、今後のメディアアートの展望を議論する。演習では、メディアアートの制作を体験することで理解を深めることを目的とする。特に、近年目覚ましい発展をしている生成AIを題材として取り上げ、それらを使ったものがアートとして成立するか、どのようにすればそれを使ったメディアアート作品の制作ができるのか、最先端の生成AIを使ったコンピュータ内部での制作だけでなく、様々な機材を使用したコンピュータの外部での物理的な制作を組み合わせ、さらに実際の作品や論文から知見を得ながら実践的に学ぶ。	講義 13.3時間 演習 10.0時間
		メディア表現特論	我々が快適に使えるハードウェアやソフトウェア、コンテンツを設計するためには、その機能や要件だけでなく、使いやすさというヒューマンインタフェースの側面も考慮することが求められる。そのため、ユーザの視点からモノのデザイン（設計）を考えることが重要となる。また、近年では、高臨場感なユーザ体験をもたらすバーチャルリアリティに代表されるように、映像メディアを三次元空間で利用する機会が増えており、人間と情報メディアの双方の特徴を考慮して、安心安全なメディア設計をすることが必要とされている。 本科目では、人と情報メディアの関係性に着目して、立体映像技術を中心としたメディアシステムの原理と応用や、立体視メディアの映像表現、生体情報とその計測について講義する。また、次世代の情報メディア表現について演習を通して提案と議論を行い、人の特性を考慮したメディア表現について理解を深める。	講義 11.7時間 演習 11.6時間
		フィジカルコンピューティング特論	本科目は、電子回路の基礎から応用までを学び、Arduinoを使用した実践的なプロジェクトを通じて、技術的スキルと社会への貢献を結びつける方法を探求することを目標とする。抵抗、コンデンサ、トランジスタなどの基本的な電子部品の機能と使用方法、これらを使用して基本的な電子回路を設計する方法について講義するとともに、実践的なプロジェクトの中でArduinoを用いたプログラミングによる演習を行う。	演習 16.6時間 講義 6.7時間
		人間工学特論	製品及びシステムの安全性、使いやすさ等に代表されるユーザビリティ（ユーザエクスペリエンス）を高めるためには、製品及びシステム設計における人間工学的配慮が求められる。この人間工学的配慮を実現するためには、その配慮ポイントを理解し、配慮設計指針を習得するだけでなく、設計プロセスにおいて、人間中心設計プロセスを導入できることが求められている。 本科目では、人間工学的配慮事項について講義するとともに、人間中心設計プロセスの国際規格及びその周辺規格、人間中心設計プロセスを実践するための種々の手法について講義する。併せて、与えられたシステム設計の課題に対して、グループワークにより、講義した手法を用いた人間中心設計プロセスを実践する演習を行う。	演習 13.3時間 講義 10.0時間
		画像工学特論	画像は、今日の情報可視化において最も重要な役割を演じる情報形態であり、画像工学の分野は、画像を扱う装置技術、システム技術、ソフトウェア技術及びその基礎としての材料技術、視覚認識理論、色彩理論等により成り立っている。 本科目では、このような技術要素により成り立つ画像工学の分野について、各技術要素に関して特にハードウェア技術領域を中心に、画像の入出力に関連した物理（光と物質の関係、色彩など）、機械（ディスプレイやプリンターなど）や化学（液晶、インクなどの画像形成材料）、数学を基礎としたコンピュータ画像処理等について講義する。	
		情報通信ネットワーク特論	インターネットの発展は目を見張るものがある。自由にアプリケーションの開発を許し、ネットワーク利用に関する制限をほとんど与えなかったために成し得た発展である。結果として出来上がってきたインターネットに関する技術は、多くの階層に関係している。 本科目では、インターネットに関する用語について理解し、他者に説明、関連技術に関して議論できることを目標として、講義回においては、TCP/IPを中心として講義し、演習回においては、PCを用いたネットワーク構築の演習を行う。	講義 13.3時間 演習 10.0時間
		情報社会特論	（概要） インターネットは高度情報化社会の基盤として確固たる地位を築いているといっても過言ではなく、我々の生活には不可欠なものとなっている。災害時の活用など安全・安心社会実現のための新たな利用方法やサービスが続々と現れる一方、情報漏洩やプライバシーの侵害、ネットいじめ、フェイク画像やデマ情報の拡散など、深刻な社会問題を引き起こすケースも増加している。この授業では、インターネットの利点・欠点について講義を行うと共に、それらについて調査・分析・発表に関する演習を通して、理解を深める。 （オムニバス方式／全14回） （3 内田理／7回） 災害時向けサービスなど、安全・安心社会を実現するためのインターネット、特にソーシャルメディアの利活用事例を紹介する。その後、それらに対する調査・分析・発表に関する演習を行う。 （15 丸山有紀子／7回） 情報技術の発達により誰もがインターネット上で情報発信ができるようになり、情報の量や質が大きく変わり様々な問題が発生している。講義により、問題の背景および影響を与えている情報メディアの特徴について理解する。さらに、問題の対策方法を探るための調査・分析・発表に関する演習を行う。	オムニバス方式 講義 13.3時間 演習 10.0時間

設置の趣旨等を記載した書類
工学研究科情報理工学専攻

【目次】

- 1 設置の趣旨及び必要性…P. 2
- 2 修士課程までの構想か，又は，博士課程の設置を目指した構想か。…P. 3
- 3 研究科，専攻等の名称及び学位の名称…P. 4
- 4 教育課程の編成の考え方及び特色…P. 4
- 5 教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件…P. 6
- 6 基礎となる学部との関係…P. 10
- 7 入学者選抜の概要…P. 11
- 8 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色…P. 11
- 9 研究の実施についての考え方，体制，取組…P. 12
- 10 施設・設備等の整備計画…P. 13
- 11 管理運営…P. 14
- 12 自己点検・評価…P. 14
- 13 情報の公表…P. 15
- 14 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…P. 17

1 設置の趣旨及び必要性

1. 東海大学大学院工学研究科の改組

東海大学が令和4年度に実施した全学的な学部改組により、本学大学院工学研究科の進学元である情報理工学部及び工学部の学科構成、定員数が大きく変動した。これにより、学部・大学院一貫の思想の下で行ってきた教育の見直し、多数の学部教員の所属異動に伴う大学院研究指導体制の再構築が必要となったことから、令和4年度学部入学生が大学院へ進学する令和8年度に向けて、改組の検討を行った。

検討の結果、令和4年度学部改組により情報メディア学科が新設され、3学科構成となった情報理工学部との接続にふさわしい、情報系の専攻の新設が必要であること、また、次項で説明する高度情報人材の社会的な需要に応えるため、令和8年度に工学研究科情報理工学専攻を設置する。

2. 工学研究科情報理工学専攻設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

現代社会においては、Society 5.0（超スマート社会）の実現に向けた取り組みが日々加速し、世界規模の大きな変革への過渡期を迎え、人工知能（AI）等の技術革新が、私たちが必要とする力や能力を急速かつ継続的に今までとは異なるものに変化させている。これにより、旧来のものの見方や考え方では、日々発生する問題や課題への解決が困難になっており、新しい「知識」と「考え方」を融合した「新しい知識」をもって、問題解決ができる人材が求められている。言い換えれば、AI等の技術だけでは果たせない、人間こそが出来る役割を果たす“新たな社会の構築につながる研究・開発ができる高度情報人材”が求められている。

このような人材を育成するためには、“読解力や数学的思考力を含む、普遍的な知識の理解と汎用的な技能を持ち”、その知識や技能を“理解し新しい考えで活用”できる「技術革新と価値創造の源となる飛躍知の発見・創造など新たな社会をけん引できる人材」が必要である。

本学は、前述の社会的背景・必要性に基づき、工学研究科に情報理工学専攻を設置する。現在、学士課程においては、情報理工学部の3学科、①AI・計算科学・数理科学・情報計測・可視化を教育研究領域とする「情報科学科」、②知能ロボティクス・コンピュータ工学を教育研究領域とする「コンピュータ応用工学科」、③メディアコンテンツ・メディアコミュニケーションを教育研究領域とする「情報メディア学科」により、「人間と情報と機械の融合」をコンセプトに、現代の情報社会が抱える多様な課題を発見する力、その本質を見抜く力、課題を解決する力を身に付けた人材養成を進めている。情報理工学専攻は、これら学部教育から育成している3つの領域（①情報サイエンス領域（情報科学科）、②情報テクノロジー領域（コンピュータ応用工学科）、③情報メディア領域（情報メディア学科））で構成し、学部教育とリンクして、“未来を拓く人間と情報の共創”を目指し、学士課程で身に付けた力を深化させていく。具体的には、“「情報」に関する知識・技術を向上させる”ため、情報分野（AI・計算科学・数理科学・情報計測・可視化・知能ロボティクス・コンピュータ工学・メディアコンテンツ・メディアコミュニケーション）に関する専門的な知識に加えて、“3つの領域を融合した視野と考え方”を身に付けることにより、柔軟な思考力と探求力を養い、健全な倫理観と国際的視野をもって、『人間と情報の共創』による新たな社会の構築を目指す高度情報人材を養成する。

以上、情報理工学専攻は、「人間」と「情報」の関係を有機的に捉え、生じている課題や問題の本質を洞察して未知の課題を想定し、「人間」と「情報」のあり方を探求し、“人間と情報が共に社会を創っていく「共創」”の考えの下、健全な未来と社会の構築を目指して、「情報分野に関する専門知識と柔軟な思考力」、「知の汎化と人間・情報共創のあり方の探求力」、「健全な倫理観と国際的視野での自己向上力」を身に付けた『人間と情報の共創』による未来社会の構築に貢献できる高度情報人材」を養成する。

なお、情報理工学専攻は、高度の専門的職業人の養成に重点を置き、修了後の主な進路については、情報通信、情報サービス、画像映像制作・放送関連の企業等へ、研究者・技術者としての就職を想定している。これにより、2030年には最大79万人に拡大することが予測されている情報人材の不足だけでなく、例えば生成型AIに基づく企業の意思決定、裁判における判例引用、個人の行動変容にみられるように、発達した情報技術による人類の在り方の変化に対応できる高度情報人材のニーズに応えていく。

以上述べてきた内容を踏まえ、情報理工学専攻のディプロマ・ポリシーを次のとおり定める。

【ディプロマ・ポリシー】

工学研究科情報理工学専攻では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「修士（工学）」を授与する。

『知識・理解』

情報分野に関する専門的知識、情報サイエンス領域、情報テクノロジー領域、情報メディア領域を融合した知識と技術を身に付けていること。

『汎用的技能』

柔軟な思考力を持ち、修得した知識と技術を汎化して人間・情報共創のあり方を探求できる力を身に付けていること。

『態度・志向性』

健全な倫理観と国際的視野での自己向上力、『人間と情報の共創』による未来社会の構築に貢献する態度・志向性を身に付けていること。

3. 研究対象とする中心的な学問分野

工学研究科情報理工学専攻は、情報サイエンス領域、情報テクノロジー領域、情報メディア領域で構成され、情報サイエンス領域のAI・計算科学・数理科学・情報計測・可視化、情報テクノロジー領域の智能ロボティクス・コンピュータ工学、情報メディア領域のメディアコンテンツ・メディアコミュニケーションを研究対象として研究活動を展開していく。

2 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か。

工学研究科情報理工学専攻（修士課程）に接続する博士課程は、既設の総合理工学研究科総合理工学専攻（博士課程）とすることから、情報理工学専攻の設置は、修士課程までの構想である。

3 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

工学研究科情報理工学専攻（修士課程）は、「情報理工学部」を基礎となる学部として設置することから、専攻名称を「情報理工学専攻」とする。

学位名称については、工学研究科に設置される専攻であることから、「修士（工学）」とする。

【日本語名称】

研究科名称：工学研究科

専攻名称：情報理工学専攻

学位名称：修士（工学）

【英訳名称】

工学研究科：Graduate school of Engineering

情報理工学専攻：Course of Information Science and Technology

修士（工学）：Master of Engineering

4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成方針

【カリキュラム・ポリシー】

工学研究科情報理工学専攻が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

工学研究科情報理工学専攻では、学士課程における学修成果を発展させ、より広く深い学識を養うために、「研究科共通科目」、「専攻共通科目」、「専攻領域科目」を配置し、順次性をもって履修し、力を身に付けることができるよう教育課程を編成している。

具体的には、「研究科共通科目」において、工学倫理、国際化に対応するための英語表現力、工学分野における多様な視点を学修するための科目を配置し、「健全な倫理観と国際的視野での自己向上力」を身に付けることを目指す。

「専攻共通科目」において、人間・情報共創社会を担えるようになるための考え方を学ぶ科目及びゼミナール科目を、「専攻領域科目」において、情報理工学専攻を構成する各領域の専門科目を配置し、「情報分野に関する専門知識と柔軟な思考力」、「知の汎化と人間・情報共創のあり方の探求力」を身に付けることを目指す。

以上の教育課程・学修成果により、『人間と情報の共創』による未来社会の構築に貢献できる高度情報人材」を育成する。

『学修成果の評価方法』

工学研究科情報理工学専攻では、次の基準に基づき、修士論文・学位の審査を行う。

- 1) 研究課題の背景、解決しようとする技術課題が明記されていること。
- 2) 研究成果の新規性が明記されていること。
- 3) 論点に一貫性があり矛盾がないこと。
- 4) 倫理的配慮がなされていること。

- 5) 審査は、研究指導教員以外の教員を含む複数教員により行われること。
- 6) 修士論文の審査手続き及び学位授与判定は、次のとおり実施される。
 - ①修士論文発表会での口頭発表・質疑応答において、ディプロマ・ポリシーに示されている知識・技能・能力等についての確認、事前に提出された修士論文発表会梗概の審査（研究成果及び研究成果の公表記録が示されているか）がなされる。
 - ②修士論文は、審査を行う複数の教員によって内容が確認され、修士論文として適切な体裁と十分な内容を有していることについて審査がなされ、学位論文の可否が判定される。
 - ③規定の修得単位数の確認、学位論文「可」の確認、口頭発表等の評価の確認に基づき、工学研究科教授会構成員の3分の2以上の「可」判定をもって学位審査「合格」並びに「学位授与」の判定がなされる。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、資料のとおり図式化することができる（資料1：養成する人材像及び3つのポリシー・教育課程との相関図）。

2. 教育課程の編成の考え方と特色

工学研究科情報理工学専攻では、Society 5.0(超スマート社会)実現のため、人工知能(AI)等の技術革新によってもたらされる新しい「知識」と「考え方」を融合した「新しい知識」をもって課題解決にあたることができるよう、『人間と情報の共創』を中心に据えた研究・教育を展開する。そのため、「情報」に関する考え方・知識・技術を向上させるための情報分野(AI・計算科学・数理科学・情報計測・可視化・知能ロボティクス・コンピュータ工学・メディアコンテンツ・メディアコミュニケーション)に関する専門科目に加えて、人間・情報共創社会を担えるようになるための考え方を学ぶ科目、工学倫理、国際化に対応するための英語表現力、工学分野における多様な視点を学修するための科目を配置したカリキュラムを編成する。

具体的な科目区分の設定は、以下のとおりである。

- 1) 「情報」がもはや社会基盤のひとつとなっていることに鑑み、情報をあらゆる分野にあまねく応用できる能力を養うため、広く工学全般を俯瞰する「研究科共通科目」を設定する。この中には、工学倫理、国際化に対応するための英語表現力、各工学分野に関する知識を身に付ける科目を設定する。
- 2) 人間・情報共創社会をけん引するためには、情報の様々な側面を知ると同時に、常に人間との関係に心を馳せるような考えが不可欠である。このような考え方と能力を涵養するとともに、修士論文の作成を通じて、これまで身に付けてきた力をまとめ上げる「専門共通科目」を設置する。
- 3) 情報を知り、情報を扱い、さらにそこから新たな知見を得るためには、情報の科学・技術・表出方法についての深い知識が不可欠となる。そのために情報サイエンス・情報テクノロジー・情報メディアの3領域における専門的な内容を網羅する「専門領域科目」を設定する。

以上を踏まえ、各科目区分における教育課程の編成は次のとおりである。

1) 研究科共通科目

本科目区分には、必修科目として「工学倫理知財特論」及び「Technical English for Engineers」を置く。さらに選択科目として「English Presentation for Engineers」、「電気回路学特論」、「応用理化学特論」、「建設マネジメント特論」、「機械工学特論」、「生体工学特論」を置く。なお、「電気回路学特論」、「応用理化学特論」、「建設マネジメント特論」、「機械工学特論」、「生体工学特論」の中から1科目を選択必修とする。

2) 専門共通科目

本科目区分の科目は全て必修科目とし、「情報理工学研究概論」及び「情報理工学研究ゼミナール1・2・3・4」を置く。

「情報理工学研究概論」は、情報理工学専攻の最重要科目であり、1年次前期に、情報理工学専攻の主要な専任教員が、オムニバス形式で人間と情報の関わりについて講義を行い、人間・情報共創社会に関する理解と挑戦を促すための知識・考え方の修得を目標とする。

「情報理工学ゼミナール1・2・3・4」において、大学院生は研究テーマを設定し、研究指導教員の下でゼミナールを入学時から課程修了まで一貫して履修し、研究を進めて修士論文の完成を目指す。同時に、「研究科共通科目」及び「専門領域科目」の履修により身に付けてきた力をゼミナールにおいてまとめ上げ、人間・情報共創社会を多角的・統合的に理解し、実社会に貢献するための研究力・実践的な技術力・発信力を涵養する。

3) 専門領域科目

本科目区分には、情報サイエンス・情報テクノロジー・情報メディアの3領域における専門的知識を学ぶための科目をバランス良く配置する。

情報サイエンス領域では、情報に関連する基礎科学を学ぶための科目として、「ディープラーニング特論」、「機械学習特論」、「ソフトコンピューティング特論」、「データサイエンス特論」、「情報数理応用特論」、「アルゴリズムとデータ構造特論」、「ディジタル信号処理特論」、「量子情報特論」、「神経情報科学特論」、「生命情報学特論」、「環境情報特論」、「電磁気学特論」を配置している。

情報テクノロジー領域では、情報技術を支える分野を学ぶための科目として、「ロボティクスシミュレーション特論」、「ロボットビジョン特論」、「制御工学特論」、「システムモデリング特論」、「LSI システム設計特論」、「光工学特論」、「光エレクトロニクス特論」を配置している。

情報メディア領域では、情報表出の方法や人間・社会との関わり方を学ぶための科目として、「バーチャルリアリティ特論」、「映像コンテンツテクノロジー特論」、「メディアアート特論」、「メディア表現特論」、「フィジカルコンピューティング特論」、「人間工学特論」、「画像工学特論」、「情報通信ネットワーク特論」、「情報社会特論」を配置している。

5 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

1. 教育方法の基本的な考え方

工学研究科情報理工学専攻は、基礎となる情報理工学部3学科における教育を発展させ、

人間と情報との関わりに重点を置き、より深く、広く学ぶための情報関連の方法・技術・応用に関する「専門共通科目」及び「専門領域科目」を配置する。また、工学倫理、国際化に対応するための英語表現力、各工学分野に関する知識を身に付ける「研究科共通科目」を設けることによって、人間・情報共創社会における情報分野をけん引する人材の育成を目指した教育を行う。

「専門共通科目」の「情報理工学研究概論」では、人間・情報共創社会に関する理解と挑戦を促すための知識・考え方の修得を目指し、情報理工学専攻の主要な専任教員によるオムニバス形式の講義を行う。

「情報理工学研究ゼミナール1・2・3・4」では、未知の課題を扱う研究作業を通じてこれまで身に付けてきた力をまとめ上げ、総合的な問題解決能力を養う。また、修士論文の中間報告会並びに発表会を、研究科の教員・大学院生のみならず学部の教員・学生にも開かれた形で開催し、工学研究科情報理工学専攻以外の教員を含め複数の異なる専門領域の教員からも研究に対する助言・評価を受けることができる機会を提供する。

上述に加え、「研究科共通科目」では、「電気回路学特論」、「応用理化学特論」、「建設マネジメント特論」、「機械工学特論」、「生体工学特論」の講義を工学研究科の他専攻の教員から受けることにより、「情報」という枠を超えて、社会に広く浸透する多様な工学分野における最新の課題や方法論を学ぶ。このように専門領域の殻に閉じこもることなく、柔軟で汎用性のある研究や実社会に成果を還元できるような研究を推奨していく。

「専門領域科目」では、細分化された分野における専門知識・技能を深く学ぶことにより、専門性を涵養する。

以上のとおり、情報理工学専攻では、汎用性と専門性の両面から大学院生の意識・考え方・知識・技術を徹底して鍛えるような教育を実施する。

2. 履修方法

履修方法は、次のとおり 30 単位以上を履修する。

「専門共通科目」5 科目（各 2 単位）はすべて必修とする。

「研究科共通科目」のうち、「工学倫理知財特論」及び「Technical English for Engineers」の 2 科目（各 2 単位）は必修とする。「電気回路学特論」、「応用理化学特論」、「建設マネジメント特論」、「機械工学特論」、「生体工学特論」（各 2 単位）は、大学院生の興味・関心に基づき、1 科目（2 単位）を選択必修とする。

「専門領域科目」は全て選択とし、大学院生の研究課題と照らし合わせながら、研究指導教員との相談に基づいて計画的に履修し、7 科目 14 単位（「研究科共通科目」において履修した選択科目があればこれに含む）以上を修得する。

標準的な履修モデルとして、次の 3 つを想定している（資料 2：履修モデル）。

- 1) 情報サイエンス分野履修モデル：情報系の基礎科学に重点をおいた研究志向の情報人材を目指す履修モデル
- 2) 情報テクノロジー分野履修モデル：情報技術の研究・開発を行う情報人材を目指す履修モデル
- 3) 情報メディア分野履修モデル：アートを含む情報表出方法や人間・社会との関わり方に重点を置いた情報人材を目指す履修モデル

3. 修了要件

工学研究科情報理工学専攻の修了要件は、次のとおりとする。

①必修科目

研究科共通科目において4単位修得。

専攻共通科目において10単位修得。

②選択必修科目

「電気回路学特論」、「応用理化学特論」、「建設マネジメント特論」、「機械工学特論」、「生体工学特論」のうち、1科目2単位修得。

③選択科目

専攻領域科目、研究科共通科目（選択必修として履修した1科目以外）より、合わせて14単位以上修得。

①②③の合計で30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。

4. 入学から修了までの履修指導及び研究指導

1) 履修指導

入学時に、入学者全員に対して新入生ガイダンスを実施する。ガイダンスでは、工学研究科情報理工学専攻の教育理念・目的・目標、教育課程の編成方針、時間割、履修方法、研究計画、修士論文の提出時期・審査時期・審査方法等に関する詳細な説明を行う。必要に応じて研究指導教員との個別面談を行う。

研究指導教員は、大学院生の希望を尊重し、相談に応じながら、修了までの履修計画について指導する。研究指導教員は、「履修モデル」及び「修了までの主なスケジュール」（資料3：修了までの主なスケジュール）を用いて入学時から修了時までの説明を行い、さらに大学院生が自らの研究テーマに関連づけて学修を深められるように指導を行う。

2) 研究指導

大学院生は、1年次前期に「情報理工学研究概論」と同時に「情報理工学研究ゼミナール1」を受講し、研究指導教員の指導を受けながら、研究課題の焦点化を行い、研究テーマの検討・設定を行う。まず、専門研究分野における社会的要請や技術課題の調査を進め、研究テーマ・研究目的を設定する。研究計画を立案し、その過程で文献調査も行う。研究計画に基づいて研究を開始する。

1年次後期の「情報理工学研究ゼミナール2」では、先行研究を整理し、研究テーマを明確にする。さらに研究計画の見直しに着手するとともに、必要な機材・ソフトウェアツール等に関する手解きを受け、これまで修得した知識と立案した研究計画に基づいて自立的に研究を進める。また、専門知識を駆使して装置やソフトウェアの設計・開発、実験やシミュレーションで得られたデータの解析を行う中で、研究結果の理論的考察を行い、先行研究に示されている過去の研究結果との比較検討を通じて自らの研究の独創性を検討する。問題点が生じた場合は、培ってきた専門知識と健全な倫理観に基づく解決策を考え、研究指導教員との議論を経て解決を図り、適宜、当初設定した研究計画の修正を行う。

2年次前期の「情報理工学研究ゼミナール3」では、研究計画に基づいて研究作業を進め、

修士論文中間報告会で発表を行う。修士論文中間報告会、学会等での成果発表、関連研究者との情報交換等を通じて、得られた研究結果の位置付けやインパクトについて検討するとともに、「人間と情報が創る未来の社会」に向けて議論を深める。

2年次後期の「情報理工学研究ゼミナール4」では、修士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を受け、論文を完成させる。これまで育んできた高度な専門知識や国際的視野に基づく健全な倫理観を駆使して研究を発展させ、2年間の研究成果を修士論文にまとめ、最後に修士論文発表会において、人間と情報の共創による未来社会の構築への貢献を目指し、自らの研究の総括を行う。

なお、研究倫理の審査を必要とする研究（人を対象とする研究あるいは動物実験を伴う研究）については、研究倫理の審査を行う委員会に申請して審査を受け、承認された上で研究を開始する。

2年間の標準的な修了までのスケジュールの要点は、以下のとおりである。

(a) 1年次

- ①大学院生は、研究指導教員に対して「履修計画書」を提出し、科目の履修について指導を受ける。
- ②大学院生は、「研究科共通科目」「専門共通科目」「専門領域科目」を履修し、研究指導教員の指導に基づいて、研究課題の焦点化を行い、研究テーマを設定する。
- ③大学院生は、研究計画（「研究計画書」の作成）を立案し、見直しを行いながら研究を進める。なお、必要に応じて研究倫理の審査申請を行う。

(b) 2年次

- ①大学院生は、研究指導教員の指導を受けながら研究計画に基づいて研究を進める。
- ②大学院生は、国内の学会や国際会議で発表することを目指す。
- ③大学院生は、修士論文中間発表会において発表し、研究指導教員のみならず、それ以外の複数の専門分野・領域の異なる教員より助言を受け、修士論文の作成を進める。
- ④大学院生は、修士論文を完成させ、修士論文発表会において発表を行う。

5. 修士論文の審査体制

修士論文の審査は、次の手続きにより進める。

1) 修士論文の提出

修士の学位を申請する者は、修士論文及び要旨について、研究指導教員を通じて情報理工学専攻長に提出する。

2) 審査教員の選定

修士論文の提出に先立ち、工学研究科教授会において、修士論文の審査を行う複数の教員（当該大学院生の研究指導教員以外の教員を含む）を選定する。

3) 修士論文発表会

修士の学位を申請する者は、修士論文、要旨及び修士論文発表会梗概の内容に基づき、修士論文発表会で発表を行う。審査教員により、発表内容・質疑応答、修士論文発表会梗概の内容について評価がなされる。

4) 修士論文の審査

審査教員は、修士論文内容の審査を行い、学位論文の可否を判定する。判定結果と修士論文発表会の評価結果は専攻長に提出され、専攻会議（情報理工学専攻のすべての専任教員で組織）において、当該修士論文が情報理工学専攻のディプロマ・ポリシーに照らして、適切な能力を備えた結果であると認められるかどうか審査され、修士論文の可否を判定する。判定結果とこれまでの審査結果は工学研究科長に提出される。

5) 学位授与の判定

工学研究科教授会は、提出された判定結果及び審査結果に基づいて、学位を授与すべきか否かを審議する（規定の修得単位数の最終確認を含む）。審議の結果、教授会構成員の3分の2以上の賛成に基づき、学位授与の判定がなされる。

6. 研究の倫理審査体制

工学研究科情報理工学専攻における大学院生に対する研究倫理に関する教育や指導については、「工学倫理知財特論」での講義において指導するとともに、全ての大学院生に日本学術振興会のテキスト（独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』2015年）を熟読させた後、研究倫理eラーニングコースを受講させ、その修了証書を提出させることにより徹底する。研究指導教員は、修了証書の提出をもって当該大学院生の倫理教育が行われたことを工学研究科に報告する義務を負う。

大学院生の研究テーマによっては、人を対象とする研究や動物実験を伴う研究に該当する場合があることから、これらの研究に対する倫理審査体制が整っていることが不可欠である。本学には、「東海大学「人を対象とする研究」に関する指針」に基づく「東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会規程」並びに「東海大学動物実験規程」（資料4：研究倫理に関する指針・規程）が制定、運用されている。倫理審査が必要な場合は、倫理委員会に対して「研究計画書」をはじめとする関連書類が提出され、指針に遵うものであるか否かの審査が厳密になされる体制となっている。

6 基礎となる学部との関係

工学研究科情報理工学専攻は、基礎となる学部である情報理工学部の3学科、①AI・計算科学・数理科学・情報計測・可視化を教育研究領域とする「情報科学科」、②知能ロボティクス・コンピュータ工学を教育研究領域とする「コンピュータ応用工学科」、③メディアコンテンツ・メディアコミュニケーションを教育研究領域とする「情報メディア学科」の教育とリンクして、“未来を拓く人間と情報の共創”を目指し、学士課程で身に付けた力を深化させていく。そのため、工学研究科情報理工学専攻を構成する3つの領域（情報サイエンス領域、情報テクノロジー領域、情報メディア領域）は、上記①②③と対応関係にある。

以上に基づき、情報理工学専攻と基礎となる学部との教育研究の柱となる領域（分野）のつながりは、関係図（資料5：基礎となる学部との関係図）のとおりである。

7 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

【アドミッション・ポリシー】

『求める学生像』

工学研究科情報理工学専攻の教育目標を理解し、この目標を達成するための基礎学力と自ら学ぶ意欲を持ち、ディプロマ・ポリシーで求められている能力を身に付けることが期待できる者。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

1) 知識・技能

情報分野（AI・計算科学・数理学・情報計測・可視化・知能ロボティクス・コンピュータ工学・メディアコンテンツ・メディアコミュニケーション）に関する専門的な学修をするために必要な基礎知識を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

情報理工学専攻での研究、修士論文作成等に必要な論理的思考力を有していること。

3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、良好な人間関係を築いていく姿勢、物事に対して主体性をもって挑戦的に取り組み、自ら学ぶ意欲があること。

2. 入学者選抜の概要

工学研究科情報理工学専攻の入学試験は、基礎となる情報理工学部からの進学者等の受験を想定した一般入学試験、企業等社会での経験・実績を有している者の受験を想定した社会人特別入学試験を、年度間に2回（春・秋）実施する（開設前年度は1回（秋）実施）。

情報理工学専攻の大学院生として必要な知識・技能、力、態度が備わっていることを入学試験で確認するため、一般入学試験においては、面接、外国語（英語）筆記試験、専門（応用数学、制御工学、情報工学、電気工学、画像工学、メディアコンテンツ、メディアコミュニケーションに関する7問から3問選択）筆記試験、社会人特別入学試験においては、事前の提出書類（入学後の研究計画書等）に基づく面接（専攻分野に関連する試問を含む）を行う。

8 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色

1) 専任教員配置の考え方及び特色

工学研究科情報理工学専攻は、3つの領域（情報サイエンス領域、情報テクノロジー領域、情報メディア領域）で構成されていることから、各領域に次のとおり専任教員を配置する。

情報サイエンス領域においては、研究指導教員として教授5名、准教授2名、講師1名を配置する。

情報テクノロジー領域においては、研究指導教員として教授5名、准教授1名、講師1名を配置する。

情報メディア領域研究においては、研究指導教員として教授6名、准教授2名、講師1名

を配置する。

以上により、各領域において研究指導資格・職位ともに充実した教員配置となっており、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを達成できる教員組織となっている。

なお、その他関連領域において准教授1名を配置するが、当該教員は英語を母国語とする教員であり、研究者・技術者として必要となる英語表現力を身に付ける科目を担当するとともに、情報理工学専攻の大学院生に対し、英語表現力の習得の支援等を行う。

2) 専任教員の年齢構成と完成年度後の教員組織の将来構想

工学研究科情報理工学専攻の専任教員全体の年齢構成は、完成年度において、30～39歳が2名、40～49歳が6名、50～59歳が9名、60～64歳が7名、65～69歳が1名であり、30～39歳、40～49歳及び50～59歳の教員が専任教員全体の7割近くを占め、高年齢に偏ることがないことから、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障はない。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を超える教員が1名いるが、「学校法人東海大学大学特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、当該教員を特任教員として完成年度まで雇用することを承認している。(資料6：定年規程等)

なお、定年を超える教員1名（主な担当科目「電磁気学特論」）の後任の補充については、令和11年度に、博士の学位を有する40～50歳代で、情報計測・可視化分野を専門分野とし、研究指導教員として教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者を選考・採用する計画を策定している。

以上により、完成年度後も専任教員全体の年齢構成が高年齢に偏らない、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障のない教員組織とすることを構想している。

9 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、本学の広範な研究活動の有機的結合や研究・運営・開発の統合化を図り、外部機関との共同研究、受託研究、産官学連携を積極的に推進することを目的に、総合研究機構を設置し、本学全体の研究に対する基本方針として、次のとおり、「東海大学総合研究機構基本理念」を定めている。

“人類の平和と福祉に貢献することを志向するものとして、そして社会に貢献する義務を担うものとして、自由で活発な研究を推進し、適正な研究環境を維持・創造するために法令遵守の精神を尊び、厳正な研究倫理を培い、闊達な研究活動を奨励・推進する。また、積極的に社会貢献を果たすために、健全な産官学連携の活動を推進し、広く開かれた国際連携の活動を推進する。さらに、研究を通じて生み出された全ての知的財産を尊重すると共に、このような理念に基づく研究活動を教育に反映させ、社会の期待に応える人材の育成を目指す。”

以上の基本方針に基づき、学内の学部・研究科及び付置研究所等において研究活動が推進されている。

研究の実施体制については、個別教員による研究遂行の他、研究支援施策（総合研究機構の学内競争的研究資金）に基づく研究の実施体制を整えており、当該施策の適切性について

毎年度学内委員会で検証し、不断の見直しを行っている。

研究の環境整備については、研究活動を支える事務組織として、学長室に研究推進・産学連携担当を置き、20 名以上の専属職員（研究活動を技術面で支援する職員を含む）を配置し、各学部・研究科・付置研究所を支援する事務組織（カレッジオフィス）の研究支援担当の職員と連携して研究環境の整備を行っている。

10 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

工学研究科情報理工学専攻の教育研究は、湘南キャンパス（神奈川県平塚市）において行う。

湘南キャンパスの校地面積は 576,880.10 m²であり、多数の講義室、実験・実習室、演習室に加え、運動場、体育館、図書館、健診室・救急処置室を備えた湘南健康推進室が整備されており、芝生広場「Palette パレット」等の学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されているため、新たな整備計画はない。

2. 校舎等施設の整備計画

「校地校舎等の図面」のとおり、湘南キャンパスの 16、17、19 号館において、工学研究科情報理工学専攻の講義・演習を行うための教室、専任教員の研究室、学生室（大学院院生室）を整備している（資料 7：大学院院生室の見取図）。

また、「専門領域科目」の講義・演習を行うために必要な設備として、「生体内電磁界・温熱界シミュレータ」、「没入型 VR システム」等を令和 7 年度（開設前年度）から令和 8 年度（開設年度）にかけて購入・整備する計画（令和 9 年度に設備購入は生じない）である。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の資料について、工学研究科情報理工学専攻の学問領域に関わる図書として 41,000 冊余りを既に整備している。また、学術雑誌についても、「学術雑誌一覧」（資料 8：学術雑誌所蔵一覧）のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書等の資料を整備して充実させる予定である。

図書館の施設整備については、情報理工学専攻の大学院生が利用する湘南キャンパス 12 号館の図書館において、閲覧室 4 室、図書館ラウンジ、視聴覚室、情報検索コーナーが既に整備されており、東海大学蔵書検索システム（TIME-OPAC）を利用して学内の図書館をはじめ各施設・研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用した 24 時間検索を実現している。以上により教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

他大学の図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かして国立情報学研究所 NACSIS-ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。なお、神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学図書館と共通閲覧証による館内にお

ける閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により協力活動を展開している。

1 1 管理運営

1. 大学院全体の運営

本学には大学院運営委員会が設置されており、大学院全体の運営に関する重要事項等を審議する。情報理工学専攻が設置される工学研究科の運営に関しても、該当する事項について大学院運営委員会において審議、決定される。大学院運営委員会は原則として月1回開催される。

2. 研究科の運営

情報理工学専攻が設置される工学研究科の運営は、工学研究科教授会により行われる。

工学研究科教授会は、研究科長を議長とし、研究科の基礎となる学部・学部長、研究科専攻の専攻長、研究科専攻の研究指導教員、研究指導補助教員を構成員とし、原則として月1回開催される。

研究科教授会では、研究及び教育（教育課程の編成を含む）に関する事項、学生の研究指導に関する事項等の教学管理・運営上の事項が審議される。

なお、個別の議案は、研究科の専攻会議、教務委員会等の専門委員会に付託されるが、その最終審議と決定は研究科教授会で行われる。

1 2 自己点検・評価

1. 機関点検・評価

機関点検・評価は、大学全体の中期目標・計画に沿って学部・研究科等で策定した中期目標・計画について、その達成度や問題点を踏まえて自己点検・評価を行った後、学部・研究科等の相互評価に付され、さらに大学評価審議会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。学長は、報告に基づいて次年度の改革改善を指揮する流れが作られている。

なお、毎年度末に、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従って自己点検評価報告書が作成される。

2. 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が自身の活動状況について登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、研究活動、教育活動、学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況、教育活動については学部での教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動等が評価対象となる。これらは、教員の所属学部等において毎年度総合評価を受ける。

3. 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

本学は、令和6（2024）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。また、大学全体の自己・点検評価について、機関点検・評価及び教員個人の総合的業績評価等を取り入れながら毎年度実施しており、毎年度、「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

13 情報の公表

本学は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172条の2に基づき、以下のとおり各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、学部、大学院における教育研究上の目的を、東海大学学則、東海大学大学院学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

トップ＞大学の概要＞学則・諸規程・コンプライアンス＞学則・諸規程＞東海大学学則、東海大学大学院学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において、高等教育部門の概念図として示している。

また、学部学科及び研究科専攻の概要については、オフィシャルサイトの＜教育・研究＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

教育研究上の基本組織：トップ＞大学の概要＞教育・研究組織について＞高等教育部門組織概念図

学部学科及び研究科専攻の概要：トップ＞教育・研究＞学部・学科、大学院

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員組織、教員数、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトの＜各種情報・お問い合わせ＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

教員組織等、各教員が有する学位及び業績に関する情報：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞「修学上の情報等」についての公表

教員数：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞「教育研究上の基礎的な情報」についての公表

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において、

「アドミッション・ポリシー」として掲載している。

入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトの＜各種情報・お問い合わせ＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

入学者に関する受入方針：トップ＞大学の概要＞理念・歴史＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

入学者の数、収容定員及び在学する学生の数：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学生について＞入学者数、在学者数

卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学生について＞就職者数

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅した内容となっている。

学生の授業選択をサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトの＜各種情報・お問い合わせ＞において、シラバスを公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞授業について＞シラバス又は年間授業計画の概要

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価については、オフィシャルサイトの＜教育・研究＞において公表している。

また、卒業・修了認定基準等については、オフィシャルサイトの＜各種情報・お問い合わせ＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

学修の成果に係る評価：トップ＞教育・研究＞学部・学科、大学院＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

卒業・修了認定基準：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞授業について

キ 校地・キャンパス等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトの＜各種情報・お問い合わせ＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学校法人東海大学情報公開 校地・校舎面積・耐震化率・耐震化完了計画

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトの＜受験・入学案内＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

トップ＞受験・入学案内＞学部・学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトの＜学生生活＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

修学支援：トップ＞学生生活＞学生生活サポート

キャリア就職：トップ＞学生生活＞キャリア就職

心身の健康等に係る支援：トップ＞学生生活＞健康推進室

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」として掲載している。

なお、この中で学位論文に係る評価に当たっての基準についても記載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問合せ＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び令和6年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜学則・コンプライアンス＞において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー：トップ＞大学の概要＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

学則：トップ＞大学の概要＞学則・諸規程・コンプライアンス＞学則・諸規程＞東海大学学則、東海大学大学院学則

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部、研究科等の「設置認可申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」

自己点検評価活動、第三者評価の結果：トップ＞大学の概要＞大学の取り組み＞大学評価

1 4 教育内容等の改善のための組織的な研修等

1. 全学での取り組み

本学では、学長室に教育支援担当を置き、複数名の専属職員を配置して組織的なFD・SD活動を推進している。

全学での取り組みとしては、教育活動の活性化を図ることを目的に、学内外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだFD・SD研修会を開催し、教員だけでなく職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。研修会の主な開催実績は次のとおりである。

開催日	テーマ
2022年11月22日(火)	SD研修会「仕事と家庭が両立できる組織づくり 育児休業・育児支援制度について考える」
2023年3月1日(水)	FD・SD研修会「東海大学における教育の内部質保証について」
2023年9月8日(金)	FD・SD研修会「生成系AIの現状と課題」
2024年2月22日(木)	FD・SD研修会「『合理的配慮』義務化に伴う私立大学の対応」
2024年7月16日(火)	FD研修会「高校の学習指導要領改訂から大学教育を考える」

2. 研究科等での取り組み

本学学部・研究科等のFD・SD活動は、学部・研究科単位で行っており、各学部・研究科にFD・SD委員会を設置して組織的な活動を推進している。

情報理工学専攻が設置される工学研究科の研究会の開催実績は次のとおりである。

開催日	テーマ
2024年2月22日(木)	FD研究会「実践教育の有効性」
2025年2月19日(水)	FD研究会「学生指導に生かす一アングーマネジメントの基本一」

また、工学研究科を支援する事務組織であるサイエンス・エンジニアリングカレッジオフィスにおいては、次のSD研修会が開催されている。

開催日	テーマ・内容
2023年9月27日(水)	研究広報に係るSD研修会（研究広報のあり方とそれに係る教職員の能力向上）
2023年11月22日(水)・23日(木)	語学能力開発SD研修会（留学生、海外機関とのやりとりに必要な英文メール作成学習）
2025年1月23日(木)	国際業務SD研修会（在留資格及び「監理措置制度」の学習）

以上のとおり、研修は年度間に1回以上実施されており、工学研究科情報理工学専攻設置後も取り組みを継続し、教育内容等の改善のための組織的な研修を充実させていく。

以 上